

## 芦屋市の文化に関するアンケート調査結果

平成 23 年 3 月 29 日

芦屋市  
神戸大学大学院国際文化学研究科藤野研究室

## I アンケート調査 概要

### 1. 調査目的

- ・芦屋市文化基本条例に基づく文化振興に関する計画策定に向けて、芦屋の個性を生かし、市民の豊かな人間性を育む取り組みを実現するために、市民の文化活動や芦屋の文化についての現状、今後の取り組みへの期待について、市民及び芦屋市を拠点とする文化団体、文化施設関係者から広く意見を収集し、その結果を(仮称)芦屋市文化振興基本計画の策定に活用する。
- ・芦屋市文化基本条例の認知度を高める。

### 2. 調査内容

#### ●市民アンケート

- 1) 基本情報(問 1～問 7)
- 2) 市民の文化活動について(問 8～問 14)
- 3) 芦屋の文化の現状と課題について(問 15～問 20)
- 4) 個性豊かな芦屋の文化の創造と発展について(問 21～問 23)

#### ●文化団体・文化施設アンケート

- 1) 基本情報(問 1)
- 2) 文化(事業)活動における課題と今後の方向性について(問 2～問 5)
- 3) 芦屋の文化環境の現状と個性豊かな文化の創造と発展について(問 6～問 8)

### 3. 調査設計

#### ●市民アンケート

- 1) 調査地域 芦屋市全域
- 2) 抽出方法 住民基本台帳から平成 22 年 7 月現在 15 歳以上の市民 2,000 人を無作為抽出
- 3) 調査方法 郵送によるアンケート調査票の配布・回収
- 4) 調査期間 平成 22 年 8 月 20 日(調査票発送)～9 月 10 日(返送締切)
- 5) 調査設計・分析 神戸大学大学院 国際文化科学研究科 藤野研究室

#### ●文化団体・文化施設アンケート

- 1) 調査対象 芦屋市内に拠点のある文化団体(11 団体)、文化施設(民間 5, 市立 10, 計 15 施設)
- 2) 調査方法 郵送によるアンケート調査票の配布・回収
- 3) 調査期間 平成 22 年 10 月 1 日(調査票発送)～10 月 20 日(返送締切)
- 4) 調査設計・分析 同上

### 4. 調査票回収結果

#### ●市民アンケート

有効回答数 1,104 枚 (回収率:55.2%)

#### ●文化団体・文化施設アンケート

文化団体回答数 6 団体 (回収率:54.5%)

文化施設回答数 12 施設 (回収率:85.7%)

## Ⅱ 芦屋市の文化に関する市民アンケート調査 結果報告

### 1. 回答者の全体像

本アンケート調査の回答者について、まず、男女別では、芦屋市人口の男女比(表 1)から見ると、今回の調査では、わずかに女性の回答者が多いものの、男女ほぼ同じ割合となった(図 1)。

次に、年齢別では、市の同人口構成比(表 3)に対して、10 歳代(15 歳以上)、70 歳代、80 歳代の回答数がやや多く、反対に 20 歳代から 40 歳代までの回答数がやや少ない(表 4)。60 歳代以上で、全体の 42%を占め、50 歳代を含めると、57%となるが、年齢的にも顕著な偏りはなく、回答を得ることができた(図 2)。しかし年齢別、男女別を合わせてみると、子育て世代の 30 歳代から 50 歳代にかけて女性の回答数が、同年齢の男性のおよそ 1.5 倍前後の回答数となっており、この年代の女性回答者の多さがひとつの特徴と言えよう(図 3)。

その結果、職業別では、家事専業、無職で 45%を占め、10 歳代の学生を含めると、57%となる(図 6)。何らかの職業を持つ、残り 40%の約半数、全体の 2 割が会社員・団体職員からの回答となった。「その他」としては、会社役員、医師、看護師、講師等の専門職の記述が見られた。

地域別では、居住区域を小学校区別に分類し、本アンケート調査では、市の人口比(表 5)と、ほぼ同じ割合で回答を得ることができた(図 6)。居住年数別では、40 年以上の居住年数の回答者が最も多いが、10 年から 19 年、20 年から 29 年の居住年数の回答者もほぼ同様に、それぞれ全体の約 2 割を占め、10 年以上、芦屋市に居住する回答者が 7 割以上となった(図 5)。よって、本アンケート調査の回答者は、市に長く居住し、芦屋市の文化状況を理解している回答者が多いと考えられる。

#### 1) 男女別

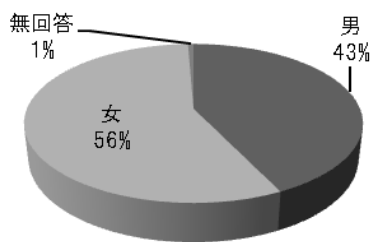
[表 1] 市男女別人口(平成 22 年 7 月 1 日現在)

	男性	女性	計
人口(人)	43,012	50,951	93,963
比率(%)	46	54	100

[表 2] 本アンケート男女別回答者数(問 1)

	男性	女性	無回答	計
回答数	473	624	7	1,104
比率(%)	43	56	1	100

[図 1] 男女別構成比



#### 2) 年齢別

[表 3] 芦屋市 15 歳以上年齢別人口と構成比(平成 22 年 7 月 1 日現在)

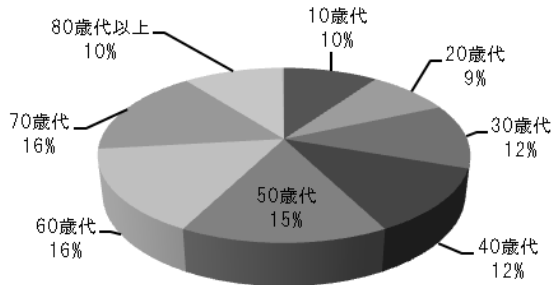
	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代以上	計
人口(人)	3,805	8,913	13,890	14,107	11,552	13,523	9,500	5,941	81,231
比率(%)	5	11	17	17	14	17	12	7	100

\*10 歳代は 15 歳以上対象

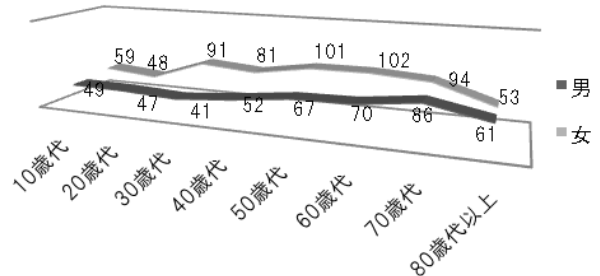
[表 4] 本アンケート回答者数(問 2)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代以上	無回答	計
回答数	108	95	132	133	168	172	180	114	2	1,104
比率(%)	10	9	12	12	15	16	16	10	0	100

[図 2] 年齢別構成比



[図 3] 年齢別男女別回答者数



3) 地域(小学校区)別

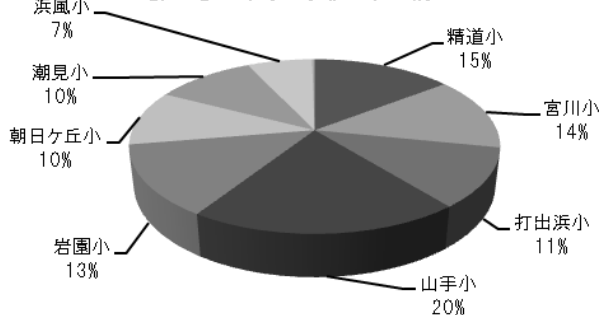
[表 5] 芦屋市小学校区別人口(平成 22 年 7 月 1 日現在)

	精道小	宮川小	打出浜小	山手小	岩園小	朝日ヶ丘小	潮見小	浜風小	計
人口(人)	13,069	11,734	9,966	19,285	12,757	9,607	10,351	7,194	93,963
比率(%)	14	12	11	20	14	10	11	8	100

[表 6] 本アンケート回答数(問 3)

	精道小	宮川小	打出浜小	山手小	岩園小	朝日ヶ丘小	潮見小	浜風小	無回答	計
回答数	161	150	121	221	146	113	114	75	3	1,104
比率(%)	15	14	11	20	13	10	10	7	0	100

[図 4] 地域(小学校区)別構成比



参考: 小学校区別居住区域

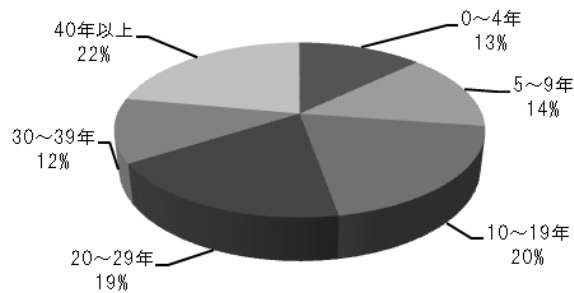
1. 精道小学校	茶屋之町, 大榎町, 公光町, 川西町, 津知町, 竹園町, 精道町, 浜芦屋町, 平田北町, 伊勢町, 松浜町, 平田町
2. 宮川小学校	打出小槌町, 宮塚町, 若宮町, 宮川町, 浜町, 西蔵町, 呉川町
3. 打出浜小学校	春日町, 打出町, 南宮町, 大東町
4. 山手小学校	奥山, 奥池町, 奥池南町, 山手町, 山芦屋町, 東芦屋町, 西山町, 三条町, 大原町, 船戸町, 松ノ内町 月若町, 西芦屋町, 三条南町, 上宮川町, 業平町, 前田町, 清水町
5. 岩園小学校	六麓荘町, 岩園町, 翠ヶ丘町, 親王塚町, 楠町
6. 朝日ヶ丘小学校	朝日ヶ丘町, 東山町
7. 潮見小学校	若葉町, 緑町, 潮見町, 陽光町, 海洋町, 南浜町, 涼風町
8. 浜風小学校	新浜町, 浜風町, 高浜町

#### 4) 居住年数別

[表 7] 本アンケート回答数(問 4)

	0～4年	5～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40年以上	無回答	計
回答数	143	158	220	208	131	243	1	1,104
比率(%)	13	14	20	19	12	22	0	100

[図5] 居住年数別構成比

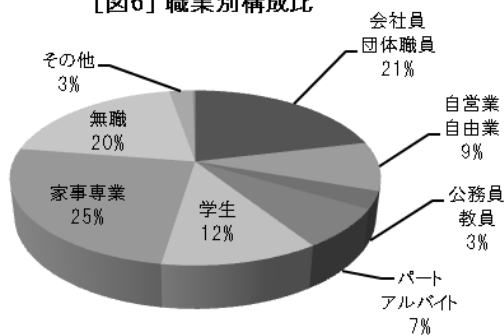


#### 5) 職業別

[表 8] 職業別回答数(問 5)

職業	会社員・団体職員	自営業・自由業	公務員・教員	農林水産業	パート・アルバイト	
回答数	235	100	35	0	81	
比率(%)	21	9	3	0	7	
職業	学生	家事専業	無職	その他	無回答	計
回答数	128	276	219	27	3	1,104
比率(%)	12	25	20	3	0	100

[図6] 職業別構成比



## 2. 集計方法

回答者の全体像(問 1～5)については、上記のとおり、市のデータと比較しながら、各分類のパーセンテージを表とグラフで示した。問 8, 9, 15 以外は、選択肢をより幅広く設定するために、3つ以内、あるいはあてはまる項目すべてに○印を記入する複数回答形式を用いたが、はじめに棒グラフで全体の集計結果を表示し、加えて基本的に男女別、年齢別の集計を行った。設問によって、問 8, 問 9, また地域との関連性の高い設問については、地域別、居住年数別というように、個別のクロス集計を追加してグラフ化した。

### 3. 調査結果

問6 あなたの文化への関心について、下記の分野のうち、**特に興味・関心のある分野**はどれですか。あてはまる番号に**3つ以内**で○印を付けてください。

1. クラシック系音楽（オーケストラ・室内楽・吹奏楽・合唱・声楽など）
2. クラシック系以外の音楽
3. 美術（絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真・デザインなど）
4. 舞台芸術（演劇・舞踊・オペラ・ダンス・ミュージカルなど）
5. 伝統芸能（能・狂言・歌舞伎・邦楽など）
6. 芸能（講談・落語・漫才など）
7. 文学（俳句・短歌・詩・小説など）
8. メディア芸術（映画・アニメーションなど）
9. 生活文化など（茶道・いけばな・囲碁・将棋など）
10. その他（ )

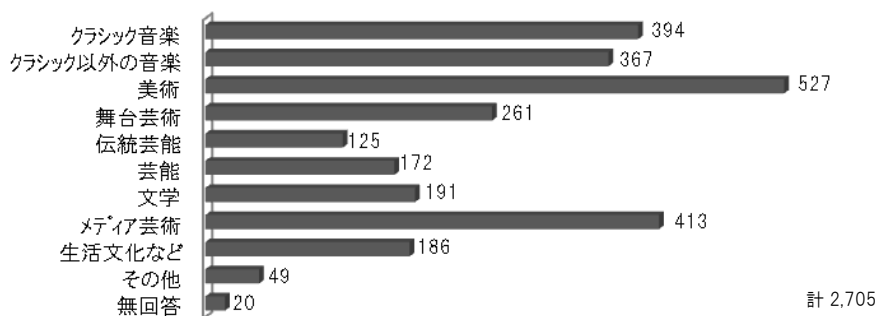
一般的な傾向として、音楽分野の活動人口が多く、クラシック系とそれ以外に分けて調査することにしたが、その結果、興味・関心のある分野は、1位「美術」(527)、2位「メディア芸術」(413)、3位「クラシック系音楽」(394)となった。これらの他に「クラシック系以外の音楽」(367)、「舞台芸術」(261)が上位を占め、続いて「文学」(191)、「生活文化」(186)、「芸能」(172)といった分野がほぼ同じ回答数となった(図7)。しかし音楽分野を合わせると、回答数は761となる。クラシック系音楽とクラシック系以外の音楽の両方に○をした回答者は、92人で、この重複分を差し引いても669となり、本調査でも、興味・関心のある分野は、音楽分野が最も多いと言える。

男女別では、女性の割合が特に高かった分野は、「舞台芸術」、「伝統芸能」と「生活文化」であり、男性は「芸能」、次いで「クラシック系以外の音楽」分野が高くなっている(図8)。

年齢別では、10歳代は、特に「クラシック以外の音楽」と「メディア芸術」の割合が高く、両者は年齢が高くなるに従って減少し、反対に「クラシック系音楽」、「伝統芸能」、「文学」と「生活文化」は年齢が高くなるに従って増加している。「舞台芸術」と「芸能」は、すべての年齢層においてほぼ同じ割合を占め、年齢に関係なく、一定の興味・関心がある分野となっている。「美術」に関しては、60歳代以上で最も関心が高くなっているが、20歳から50歳代にかけても、それぞれ全体の2割程度を占めている(図9)。

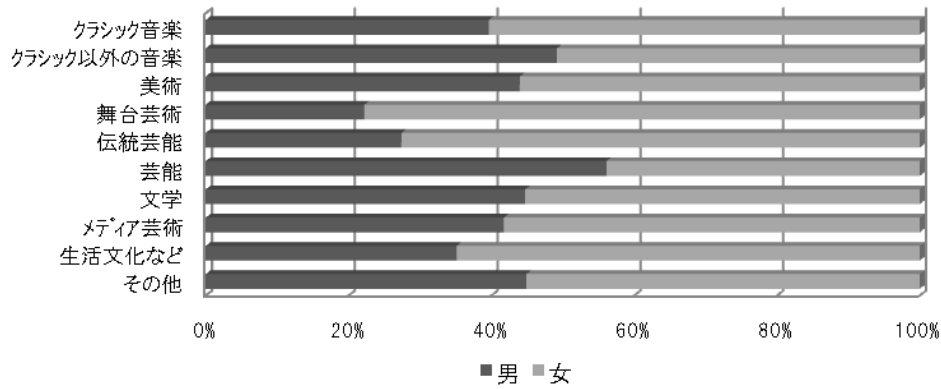
地域別では、興味・関心のある分野について、特に目立った特徴はないと言ってよいだろう(図10)。

[図7] 興味・関心のある分野

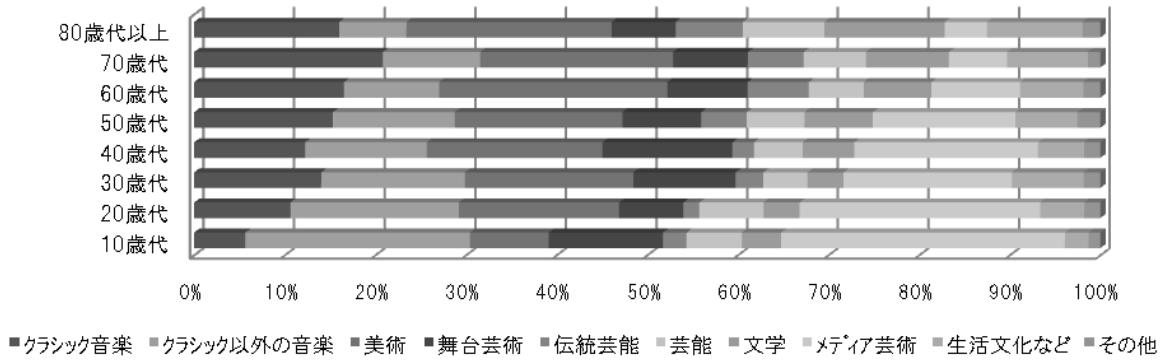


その他: 園芸・盆栽等(5), 科学・自然環境(4), 食文化(3), 旅行(2), アウトサイダーアート, 宗教, 切手収集  
釣, 占い他, 健康・スポーツ関連(6), 興味なし・特になし(5)

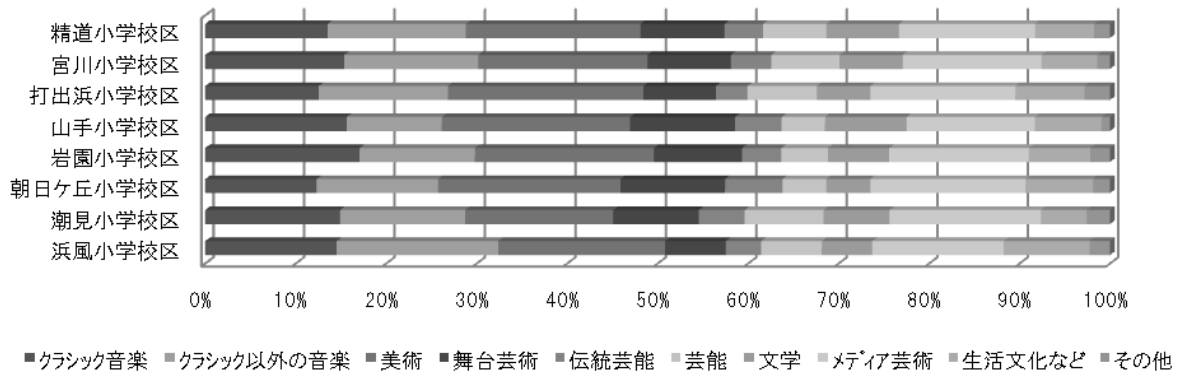
[図8] 興味・関心のある分野（男女別）



[図9] 興味・関心のある分野（年齢別）



[図10] 興味・関心のある分野（地域別）



問7 あなたの主な自由時間の過ごし方について、あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

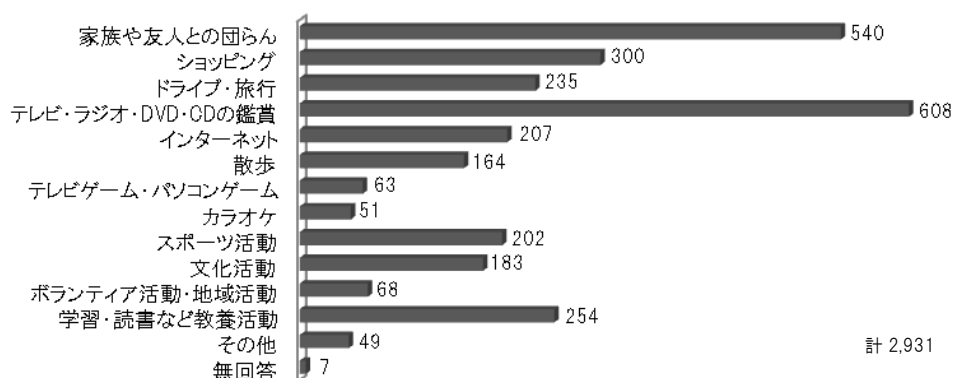
1. 家族や友人との団らん
2. ショッピング
3. ドライブ・旅行
4. テレビ・ラジオ・DVD・CD等の鑑賞
5. インターネット
6. 散歩
7. テレビゲーム・パソコンゲーム
8. カラオケ
9. スポーツ活動
10. 文化活動（問6の分野への鑑賞、参加又は創造）
11. ボランティア活動・地域活動
12. 学習・読書など教養活動
13. その他（ ）

自由時間の過ごし方については、1位「テレビ、ラジオ、DVD、CD等の鑑賞」(608)、2位「家族や友人との団らん」(540)が突出して多く、「ショッピング」(300)、「学習・読書など教養活動」(254)、「ドライブ・旅行」(235)、「インターネット」(207)のあと、わずかな差で、「スポーツ活動」(202)、そして「文化活動」(183)の順となった(図11)。

男女別では、「テレビゲーム・パソコンゲーム」、「スポーツ活動」と「ドライブ・旅行」の順に男性比率が高く、これに対して、女性が占める割合の高い項目は、「ショッピング」、「ボランティア活動・地域活動」、「家族や友人との団らん」、「文化活動」である(図12)。

年齢別では、一般的に想定されるとおり、10歳代は、「テレビゲーム・パソコンゲーム」と「カラオケ」の割合が高く、男女別の結果を踏まえると、前者は10歳代の男性が多いということになる。「家族や友人との団らん」、「ショッピング」、「テレビ・ラジオ・DVD、CD等の鑑賞」、「インターネット」は、すべての年齢において一定の割合を占めているが、「家族や友人との団らん」と「ショッピング」は30歳代がやや高く、「インターネット」は、20歳代までが占める割合が高い。「散歩」、「ボランティア活動・地域活動」、「文化活動」については、50歳代以上で7割以上を占めている。「スポーツ活動」は、やや20歳代の割合の低さが目立っている(図13)。

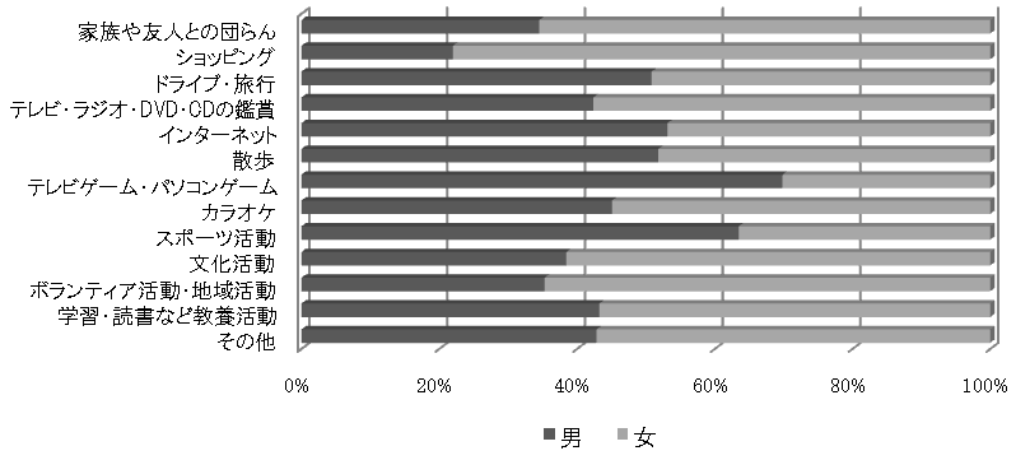
【図11】自由時間の過ごし方



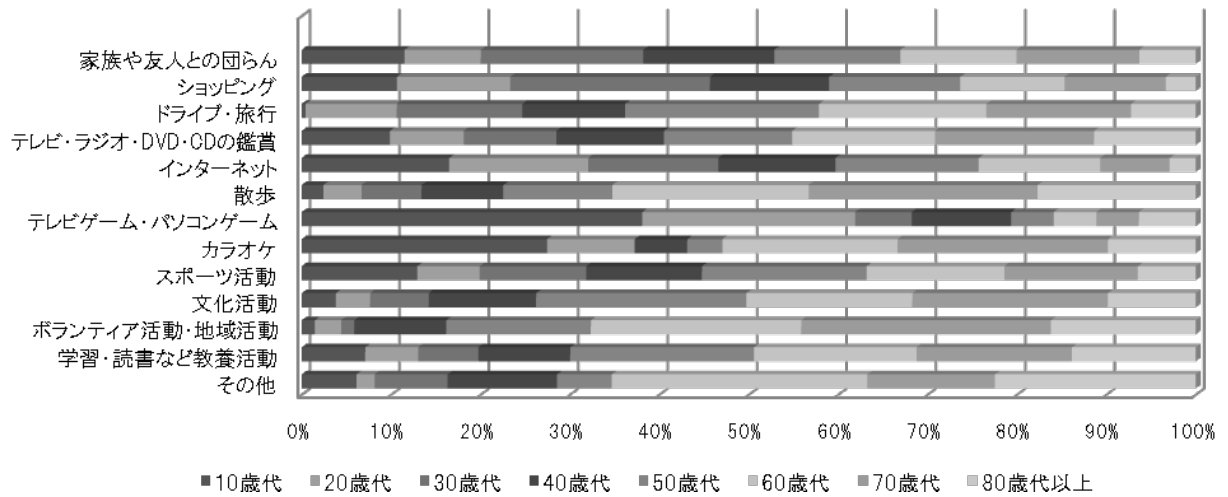
その他: 園芸・家庭菜園(6), おもちゃ手作り, アウトドア・キャンプ, 電車・バスに乗ること, 他



[図12] 自由時間の過ごし方（男女別）



[図13] 自由時間の過ごし方（年齢別）



問8 この1年間に、文化施設等で文化を鑑賞したり、参加、活動するために足を運ばれましたか。あてはまる番号に○印を付けてください。

1. はい ⇒ 問9へ      2. いいえ ⇒ 問13へ

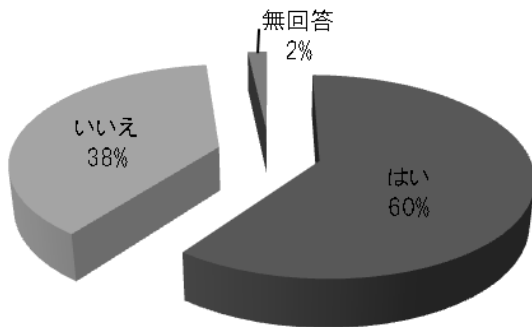
この1年間に、文化施設等を利用して、文化を鑑賞、参加、活動した、「はい」の回答者(664人)は、全体の60%となり、本調査での回答者の6割が実際に文化施設等に出向いて、何らかの文化活動を行っていることがわかる(表9, 図14)。

男女別では、「はい」との回答者のうち、女性405人、男性256人で、約6割を女性が占めている(図15)。その一方、一度も文化施設等に足を運ばなかった男性(208人)と女性(210人)の割合は、ほぼ同じである(図16)。

年齢別では、10歳代において「いいえ」の回答が多く、20歳代と80歳代においても、「いいえ」が上回るものの、ほぼ同数となった。30歳代から70歳代にかけて、山を描くように「はい」の回答者が多く、構成比で見ると、「はい」の回答者は40歳代から60歳代の割合が高く、「いいえ」の回答者は、10歳代と80歳代が高い(図18, 19)。

職業別では、「はい」の回答は、「家事専業」(198人)が最も多く、次に「会社員・団体職員」(134人)という結果となった(図20)。職業別構成比(図6)においても、両者の占める割合も高いが、「家事専業」については「はい」の回答者の約3割を占め(図21)、一方、年齢別の結果と同様に、「いいえ」の回答者は、「学生」の比率が高い(図22)。

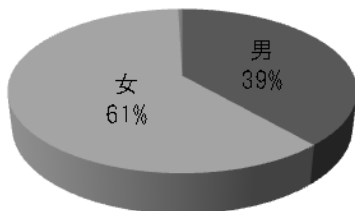
[図14] この1年間に文化施設等へ足を運びましたか



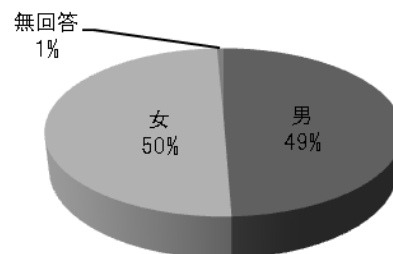
[表9] 問8回答者数

はい	664		男	女
いいえ	421	はい	256	405
無回答	19	いいえ	208	210
計	1,104	計	464	615

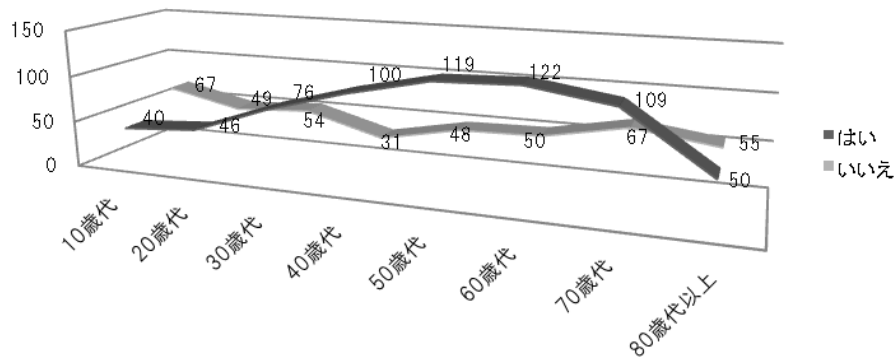
[図15] 「はい」の回答(男女別)



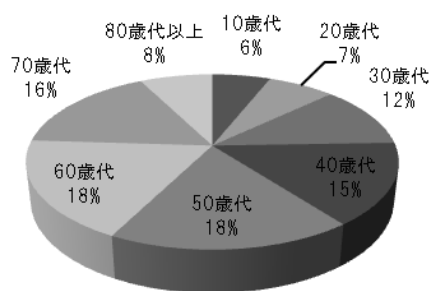
[図16] 「いいえ」の回答(男女別)



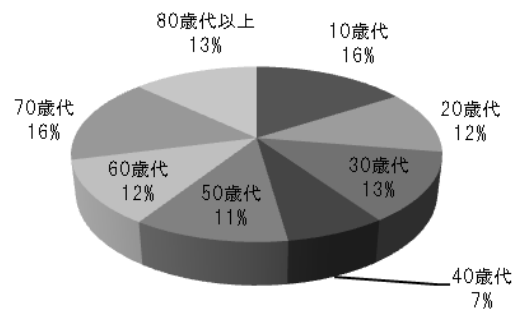
[図17] この1年間に文化施設等に足を運びましたか（年齢別）



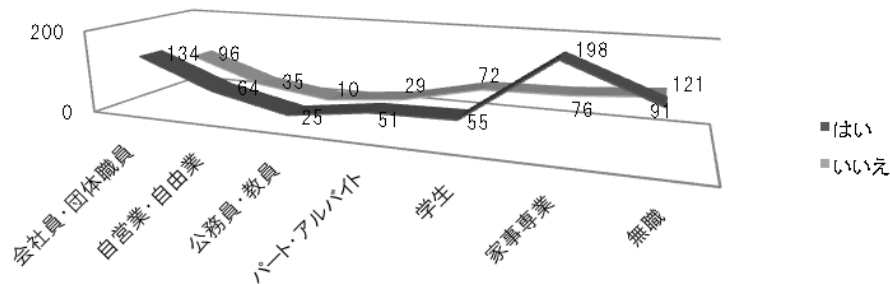
[図18] 「はい」の回答（年齢別）



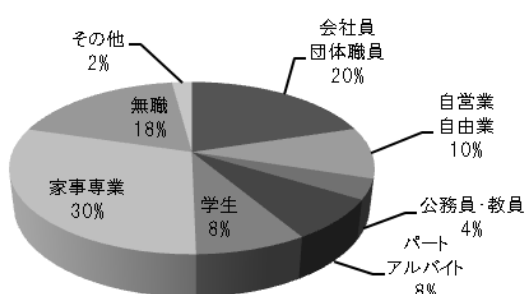
[図19] 「いいえ」の回答（年齢別）



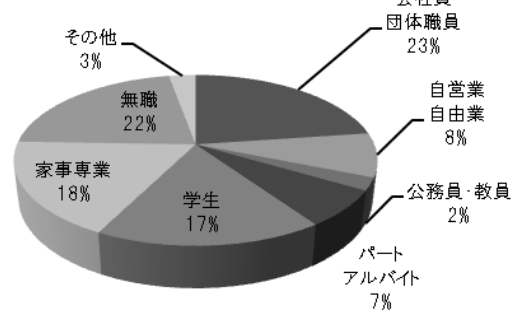
[図20] この1年間に文化施設等へ足を運びましたか（職業別）



[図21] 「はい」の回答（職業別）



[図22] 「いいえ」の回答（職業別）



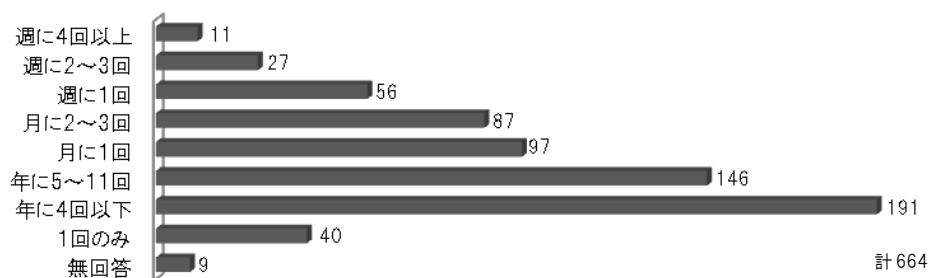
問9 以下,問8で「1. はい」とお答えになられた方にお聞きます。この1年間に文化施設等に足を運んだ回数  
はどれくらいですか。あてはまる番号に○印を付けてください。

- |           |                |                |
|-----------|----------------|----------------|
| 1. 週に4回以上 | 2. 週に2～3回      | 3. 週に1回 (月に4回) |
| 4. 月に2～3回 | 5. 月に1回 (年12回) | 6. 年に5～11回     |
| 7. 年に4回以下 | 8. 1回のみ        |                |

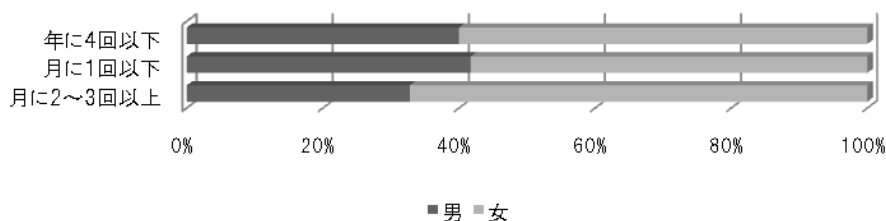
この一年間に、文化施設等に足を運んだ回答者(664人)のうち、その回数は、「年に4回以下」(191人)が最も多く、次に「年5回～11回」(146人)となり、「1回のみ」(40人)を合わせて、年に数回以下の回答者は、全体の57%である。その一方、「月に2～3回」以上の、頻繁に文化施設等に足を運んでいる回答者(計181人)は、27%となる(図23)。3番目に多かった、「月に1回」(97人)という回答者を合わせると、本調査の回答者全体(1,104人)の25%は、この1年間に、月に1回以上は、文化施設等へ足を運んだという結果となる。

「月に2～3回」以上、頻繁に文化施設等へ足を運んでいる回答者は、男女別では女性の比率が高く、年齢別では、40歳代以上で、9割以上となった(図24, 25)。

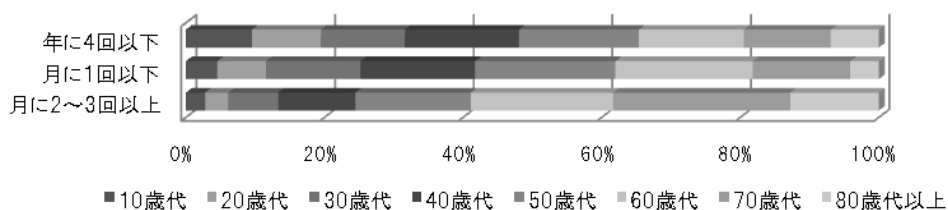
[図23] この1年間に文化施設等に足を運んだ回数



[図24] この1年間に文化施設等に足を運んだ回数 (男女別)



[図25] この1年間に文化施設等に足を運んだ回数 (年齢別)



問 10 その施設はどこですか。あてはまる番号に○印を付けてください。

<市内>

1. 市民会館 2. ルナ・ホール 3. 公民館 4. 地域の集会所
5. 美術博物館 6. 谷崎潤一郎記念館 7. 富田碎花旧居 8. 俵美術館
9. 滴翠美術館 10. エンバ中国近代美術館 11. ヨドコウ迎賓館
12. 虚子記念文学館 13. 打出教育文化センター 14. 上宮川文化センター
15. あしや市民活動センター 16. 市立図書館（打出分室、大原分室含む）
17. 男女共同参画センター 18. 地域のコミュニティ・スクール（コミスク）
19. 民間のカルチャーセンター 20. その他（ ）

<市外>

1. 県立芸術文化センター 2. 県立美術館
3. 神戸文化ホール 4. 神戸市立博物館
5. 県内のホール・文化施設（ ）
6. 県内の美術館・博物館（ ）
7. その他（ ）

この1年間に文化施設等に足を運んだ回答者(664人)のうち、施設名については無回答者(市内182人、市外174人)が多く、問10の回答者数は、市内482人、市外490人の集計結果となる。

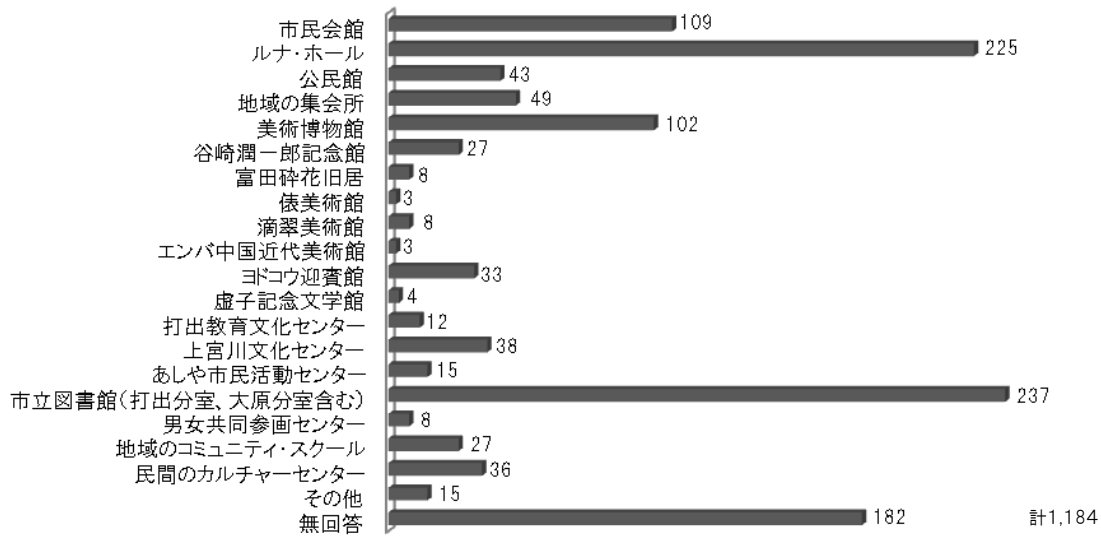
市内の施設では、足を運んだ場所として「市立図書館」(237)、「ルナ・ホール」(225)が突出して多く、続いて、「市民会館」(109)、「美術博物館」(102)となった。回答者数(482人)に対する比率は、順に49%、46%、23%、21%となり、問10回答者の約半数は、「市立図書館」と「ルナ・ホール」を利用していることがわかる。回答数の少ない他の博物館や美術館を除くと、文化活動場所としては、「地域の集会所」(49)、「公民館」(43)、「上宮川文化センター」(38)、「民間のカルチャーセンター」(36)、「コミスク」(27)の順となる(図26)。

市外の施設では、「県立美術館」(173)、「県立芸術文化センター」(162)、「神戸市立博物館」(124)の順になるが、「その他」で、県外の施設名を挙げる回答者の多さは注目されるであろう(図27)。

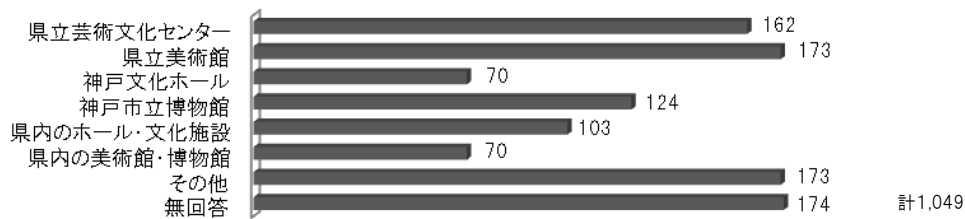
市内の施設利用における男女別では、元々女性比率は高いが、その中で、「谷崎潤一郎記念館」と「ヨドコウ迎賓館」については、男性の割合が多くなっている(図28)。年齢別では、「コミスク」、「市立図書館」、「上宮川文化センター」、「打出教育文化センター」は、若い世代にも比較的活用されている(図29)。

県内、県外施設については、具体的な名称を列挙したが、県内のホール・文化施設では、「神戸国際会館」、「尼崎アルカイクホール」、「西宮アミティホール」、「西宮市立図書館」、「西宮市立大谷記念美術館」等、近隣の施設名が多く挙げられている。県外では、京都、大阪の美術館・博物館、劇場、ホール名が多数記述されており、文化活動の活発さが窺えよう。

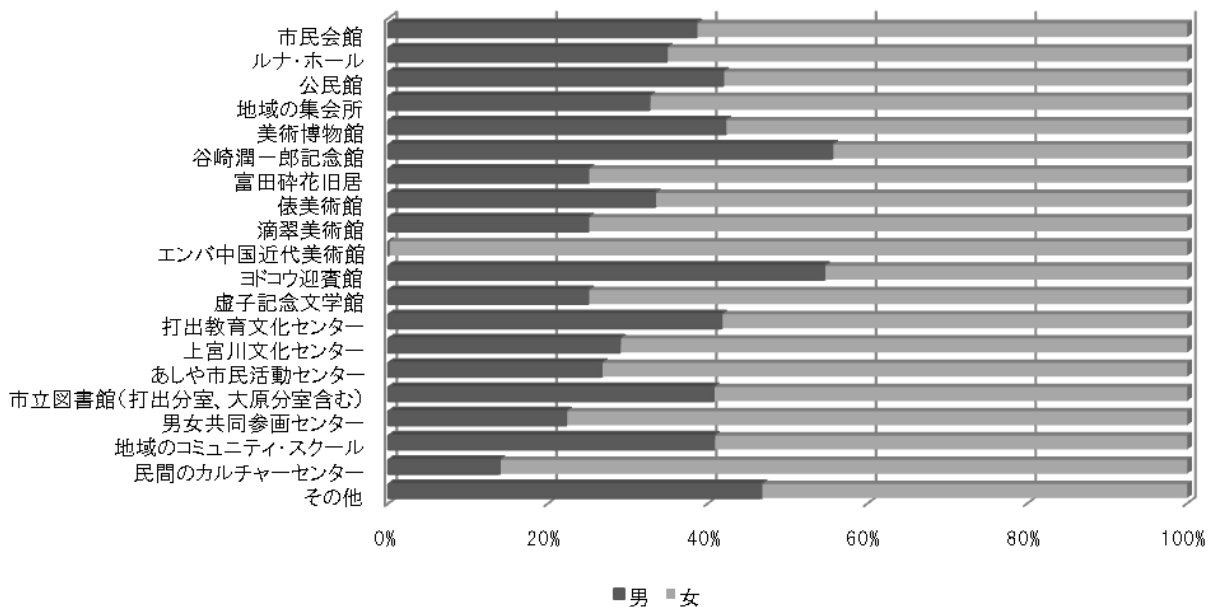
[図26] この1年間に訪れた文化施設(市内)



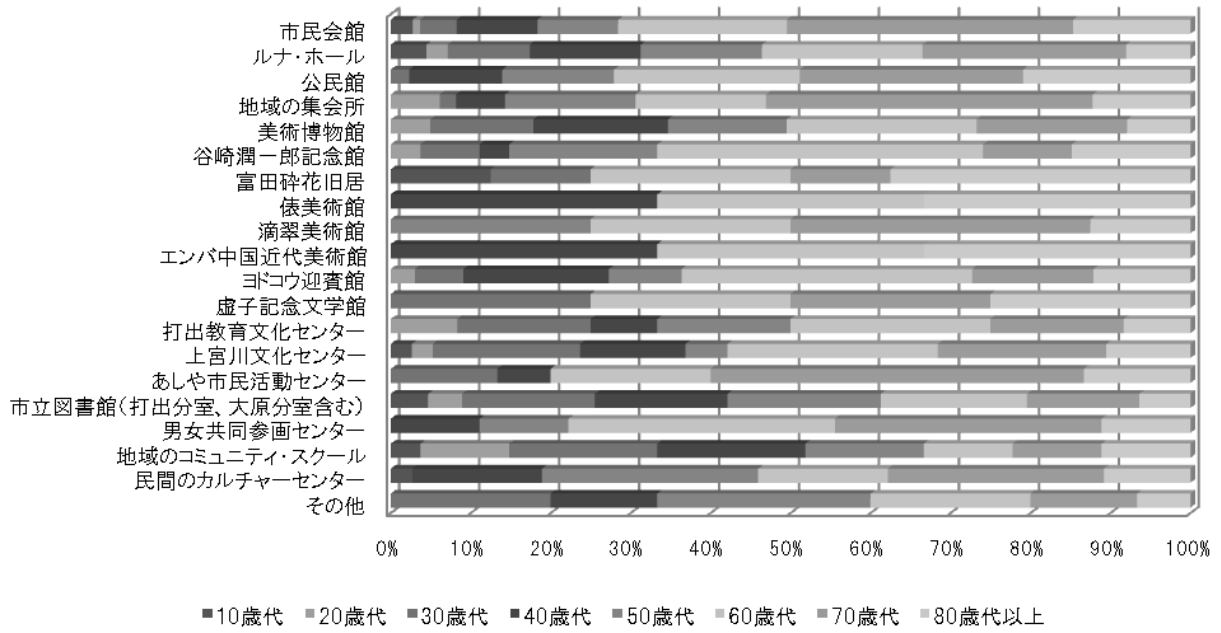
[図27] この1年間に訪れた文化施設【市外】



[図28] この1年間に訪れた文化施設【市内】(男女別)



[図29] この1年間に訪れた文化施設【市内】（年齢別）



■具体的な文化施設等の名称 \* ( )内は合計回答数

市内（その他）

個人宅, ラポルテ, 個人の音楽活動拠点, 海技大学校, 芦屋大学付属中・高体育館等

5. 県内のホール・文化施設

神戸国際会館	(10)	西宮市立図書館	(6)
尼崎アルカイクホール	(8)	兵庫県民会館	(2)
ピッコロシアター		兵庫県公館	
西宮アミティホール	(7)	神戸市内勤労会館・勤労市民センター	(4)
西宮プレラホール		神戸市青少年会館	
宝塚大劇場	(3)	神戸市婦人会館	
伊丹アイ・ホール	(2)	神戸市東灘区民センター	
神戸東灘区うはらホール		神戸市内公民館・コミスタ	(2)
神戸北区すずらんホール		映画館	(3)
神戸酒心館ホール		スタジオ(フィッシュダンススタジオ・セルバスタジオ)	(2)
神戸ワールド記念ホール		その他	
松方ホール		老人ホーム, 神社・仏閣	
明石アワーズホール		西宮ヨットハーバー 他	

6. 県内の博物館・美術館

西宮市大谷記念美術館	(9)	県立陶芸美術館	(2)
西宮貝類館		県立考古博物館	
尼信博物館		県立歴史博物館	
香雪美術館		明石市文化博物館	
小磯美術館	(2)	姫路市立美術館	

市外（その他）

京都国立博物館	(9)	梅田芸術劇場	(3)
京都市美術館	(8)	劇団四季の劇場	(2)
京都国立近代美術館	(3)	大阪城ホール	(3)
国立国際美術館	(4)	その他	
京都, 大阪の博物館・美術館	(11)	大阪の劇場・ホール名(民間施設含む)	(17)
奈良の美術館・博物館(民間施設含む)	(3)	京都の劇場・ホール名(民間施設含む)	(3)
東京の美術館・博物館(民間施設含む)	(2)	東京の劇場・ホール名(民間施設含む)	(4)
国立美術館・博物館	(1)	「全て県外」, 県外の施設名等	(11)
デパート催事場, 展覧会施設	(5)	民間のカルチャーセンター等, 民間施設	(4)
ザ・シンフォニーホール	(9)	映画館	(6)
いずみホール	(3)	中学, 高校, 大学施設	(5)
京都南座	(6)	「主に東京」, 「京都」, 「大阪」(都市名のみ)	(10)
大阪松竹座	(4)	「海外」, 海外の美術館名等	(6)
国立文楽劇場	(3)		



問 11 あなたは、どのようにして文化に関する鑑賞や活動などを行っていますか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

1. 趣味として鑑賞を楽しんでいる
2. 趣味又はボランティアとして文化団体に参加、活動している
3. 習い事として活動している
4. コンクールや展覧会等への参加・出品を目標に活動している
5. 文化団体などで指導者等として活動している
6. 文化施設等でボランティア活動をしている
7. 文化団体や文化施設等に関する支援や寄附を行っている
8. その他 ( )

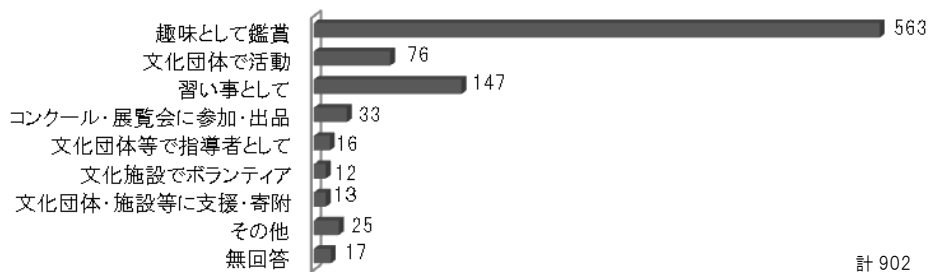
この1年間に文化施設等に足を運んだ回答者(664人)の活動形態について、「趣味として鑑賞を楽しんでいる」(563)が突出して多く、続いて「習い事として活動している」(147)である(図30)。「趣味としての鑑賞を楽しんでいる」という回答者のうち、他の項目にも○印をつけている複数回答者は、167人で、この1年間に文化施設等に足を運んだ回答者のうち、「趣味としての鑑賞を楽しんでいる」のみ回答者は、約6割(396人)となった(表10)。

男女別では、「習い事として活動している」と「文化団体などで指導者等として活動している」回答は女性比率が高く、「コンクールや展覧会等への参加・出品を目標に活動している」と「文化施設等でボランティア活動をしている」回答は、数が少ないものの、男性比率が高い(図31)。

年齢別では、「趣味又はボランティアとして文化団体に参加、活動している」回答は、50歳代以上、「習い事として活動している」回答は、40歳代以上、それぞれ8割を占め、「コンクールや展覧会等への参加・出品を目標に活動している」比率は10歳代が高い。回答数は少ないものの、「文化団体などで指導者等として活動している」回答は、50歳代と70歳代の比率が高く、「文化施設等でボランティア活動をしている」回答は、60歳代が4割以上を占めている(図32)。

問9「この1年間に文化施設等に足を運んだ回数」との関係で見ると、想定されるとおり、回数が少ないほど、「趣味として鑑賞を楽しんでいる」回答が多いが、回数が多くなるほど「習い事として活動している」が多くなっている(図33)。

[図30] 文化活動の形態

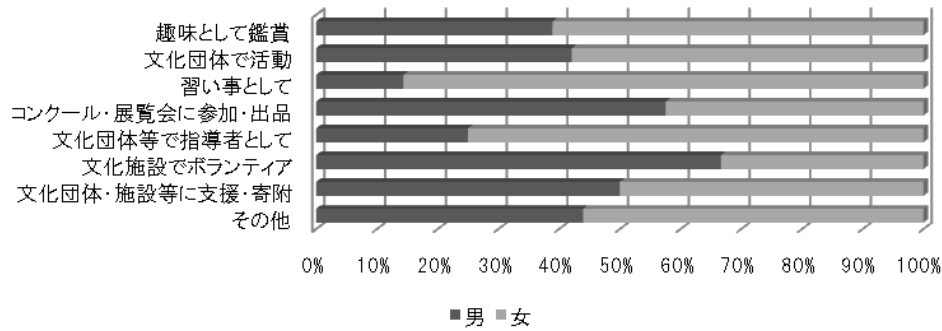


[表10] 1の回答者数内訳

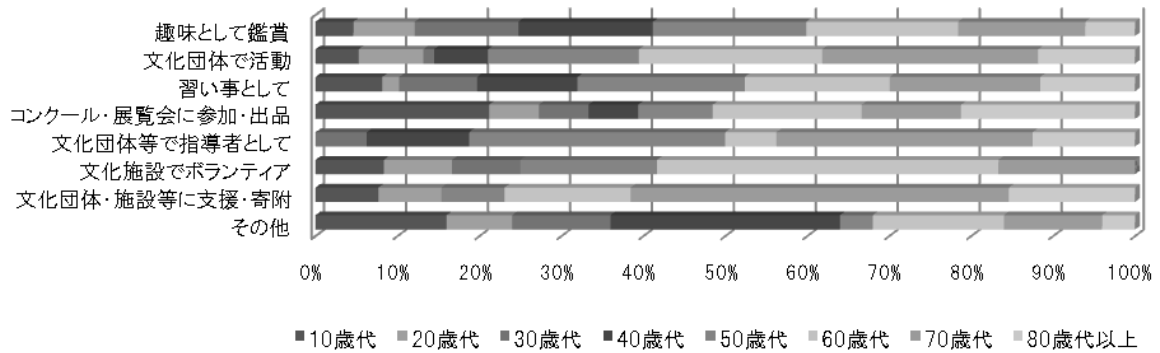
1のみ選択	396
1を含む複数回答	167
計	563

その他:子どもともに・家族のために(7), 付き合い, 友人のために(2), 学校行事(2)等

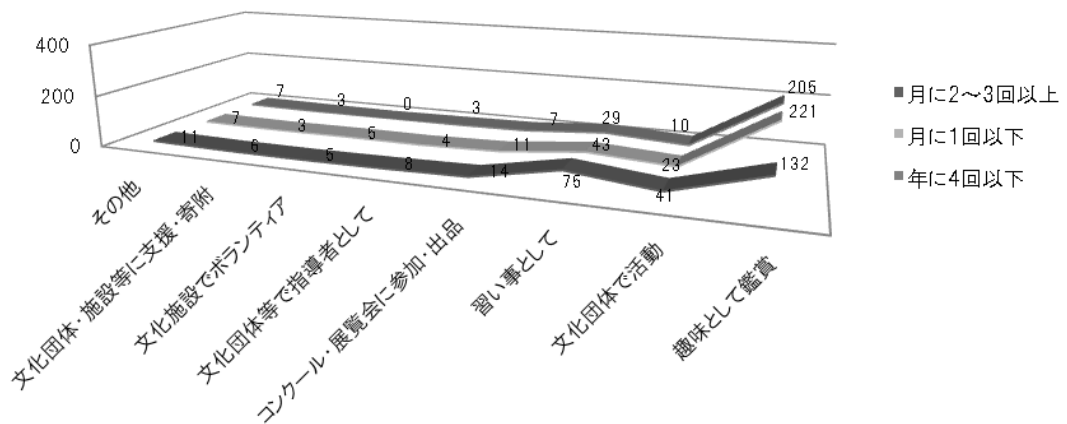
[図31] 文化活動の形態（男女別）



[図32] 文化活動の形態（年齢別）



[図33] 文化活動の形態  
（問9 この1年間に文化施設等に足を運んだ回数別）



問 12 あなたがよく鑑賞又は参加・活動している分野について、あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

1. クラシック系音楽（オーケストラ・室内楽・吹奏楽・合唱・声楽など）
2. クラシック系以外の音楽
3. 美術（絵画・彫刻・陶芸・工芸・書道・写真・デザインなど）
4. 舞台芸術（演劇・舞踊・オペラ・ダンス・ミュージカルなど）
5. 伝統芸能（能・狂言・歌舞伎・邦楽など）
6. 芸能（講談・落語・漫才など）
7. 文学（俳句・短歌・詩・小説など）
8. メディア芸術（映画・アニメーションなど）
9. 生活文化など（茶道・いけばな・囲碁・将棋など）
10. その他（ ）

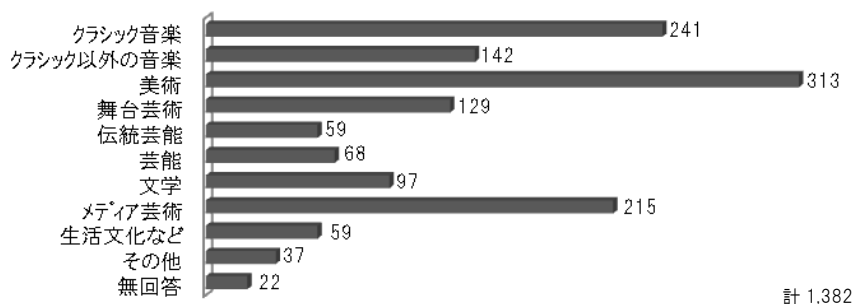
この 1 年間に文化施設等に足を運んだ回答者(664 人)が、よく鑑賞又は参加・活動している分野に関しては、「美術」(313)、「クラシック系音楽」(241)、「メディア芸術」(215)の順に多く、問 6 の興味・関心分野とほぼ同様の結果である(図 34)。しかし分野ごとに問 6 の回答数に対する問 12 回答数の比率を見ると、「クラシック系音楽」と「美術」は、約 6 割が実際に鑑賞等の活動をしているが、「クラシック系以外の音楽」については 4 割に満たず、同分野は 10 歳代の関心が高いためであると考えられる(表 11, 図 9)。

男女別では、音楽分野は回答者の構成から考えて、ほぼ同じ割合であるが、「舞台芸術」、「伝統芸能」と「生活文化など」の分野は女性比率が高く、「芸能」に関しては男性比率が高い(図 35)。

年齢別においても、問 6 の興味・関心のある分野とほぼ同じ構成だが、10 歳代に関しては、「クラシック音楽」の活動比率が高くなっている(図 36, 図 9)。

この 1 年間に文化施設等に足を運んだ回数とのクロス集計では、月に 2～3 回以上の回答者は、全体の 3 割程度であるが、分野別の総数からその割合で見ると、「メディア芸術」で占める割合が低く、とりわけ「伝統芸能」と「文学」の分野で高くなっている。月に 1 回程度の回答者は、「美術」、「クラシック系音楽」と「メディア芸術」の分野での活動が盛んであることが読み取れる(図 37)。

[図34] 文化施設等での鑑賞、参加・活動分野



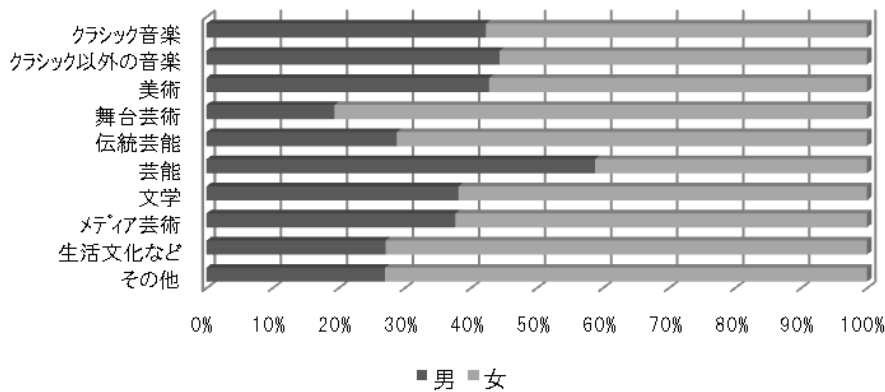
その他: 語学(2), 朗読, 経済・法律・科学・政治・文化, 講演会, 神社・仏閣・歴史・文化, 健康・スポーツ関連(省略)

[表 11] 問 6 回答数に対する問 12 回答数の分野別比率

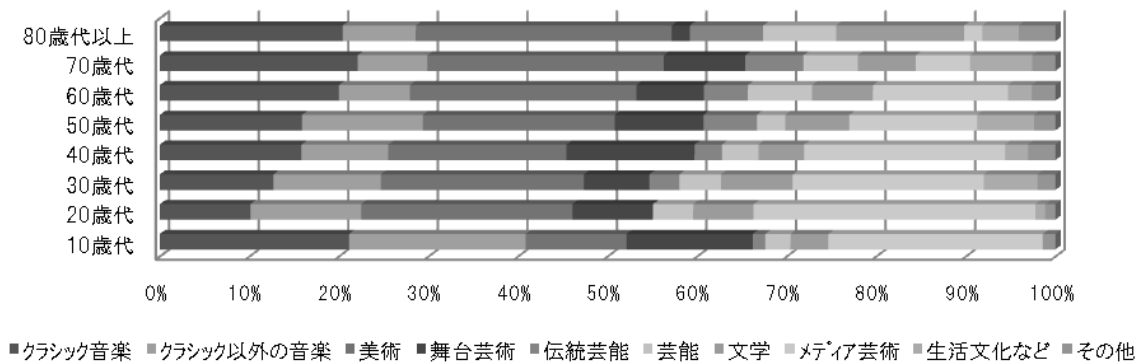
\* 小数点以下は四捨五入

	クラシック音楽	クラシック以外の音楽	美術	舞台芸術	伝統芸能	芸能	文学	メディア芸術	生活文化等
問 6 回答数	394	367	527	261	125	172	191	413	186
問 12 回答数	241	142	313	129	59	68	97	215	59
比率(%)	61	39	60	50	47	40	50	53	32

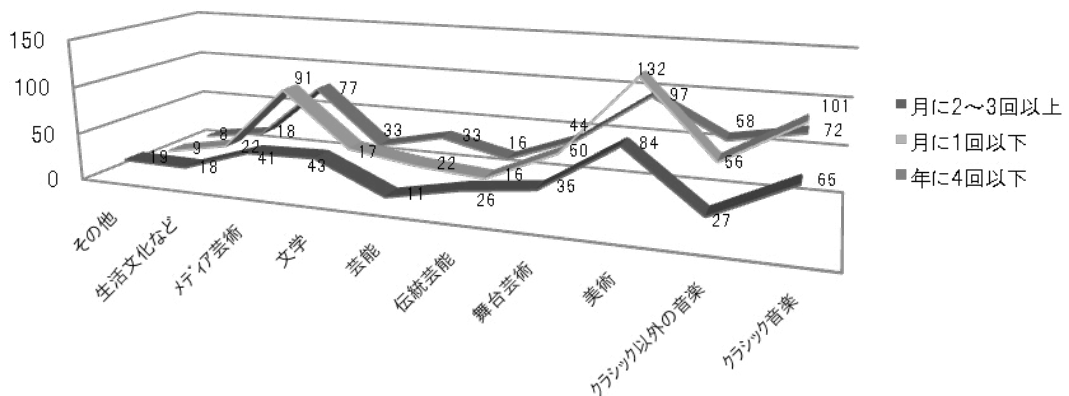
[図35] 文化施設等での鑑賞、参加・活動分野（男女別）



[図36] 文化施設等での鑑賞、参加・活動分野（年齢別）



[図37] 文化施設等での鑑賞、参加・活動分野（問9 この1年間に文化施設に足を運んだ回数別）



問 13 問8で「2. いいえ」とお答えになられた方にお聞きします。鑑賞又は参加、活動しなかった大きな理由は何ですか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

1. 鑑賞又は参加する時間がなかった
2. 鑑賞又は参加したいものがなかった
3. 場所が遠かった
4. 料金が高額だった
5. 一緒に行く仲間、友人がいなかった
6. 情報が少なかった
7. 子どもを預ける場所がなかった
8. 興味のもてる指導者がいなかった
9. 健康的な理由で鑑賞又は活動できなかった
10. テレビ・ビデオ・CD・DVDなど自宅で鑑賞することで満足している
11. まったく興味がない
12. その他 ( )

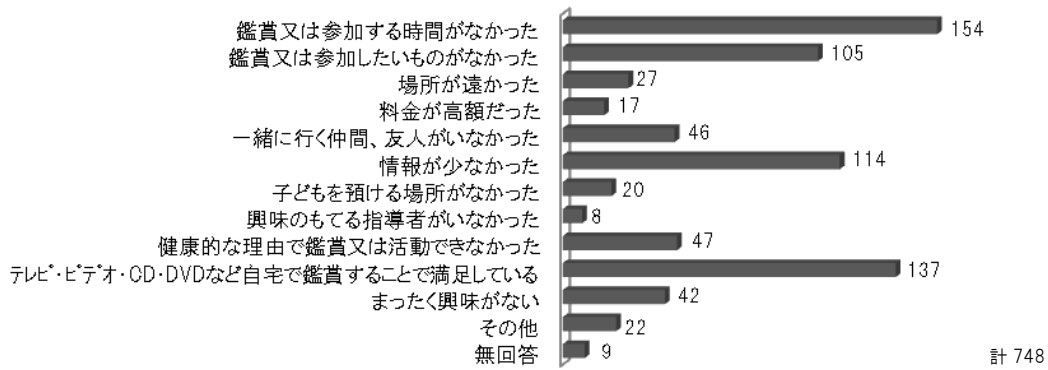
この1年間に文化施設等で鑑賞又は参加・活動しなかった理由について、多かった回答は、「鑑賞又は参加する時間がなかった」(154)、次に「テレビ・ビデオ・CD・DVD など自宅で鑑賞することで満足している」(137)、そして「情報が少なかった」(114)、「鑑賞又は参加したいものがなかった」(105)という結果となった。それらに加えて「一緒に行く仲間や友人がいなかった」(46)、「まったく興味がない」(42)や健康的な理由(47)も挙げられている(図 38)。

男性比率の高い理由は、「テレビ・ビデオ・CD・DVD など自宅で鑑賞することで満足している」(77)、「鑑賞又は参加したいものがなかった」(63)で、「興味のもてる指導者がいなかった」(8)という理由は極めて少ないが、そのほとんどは男性の回答(7)である。「子どもを預ける場所がなかった」(20)については、わずかながら男性(4)も含まれている。一方、女性の回答では、「鑑賞又は参加する時間がなかった」(91)が最も多く、場所や料金、健康上の理由も女性比率が高い(図 39)。

年齢別では、「まったく興味がない」という理由は10歳代が占める割合が高く、「子どもを預ける場所がなかった」は、想定されるとおり、30歳代が大半を占めている。「鑑賞又は参加する時間がなかった」、「鑑賞又は参加したいものがなかった」という理由は、40歳代までが占める割合が高く、「テレビ・ビデオ・CD・DVD など自宅で鑑賞することで満足」や「場所が遠かった」については、50歳代以上の比率が高い理由である(図 40)。

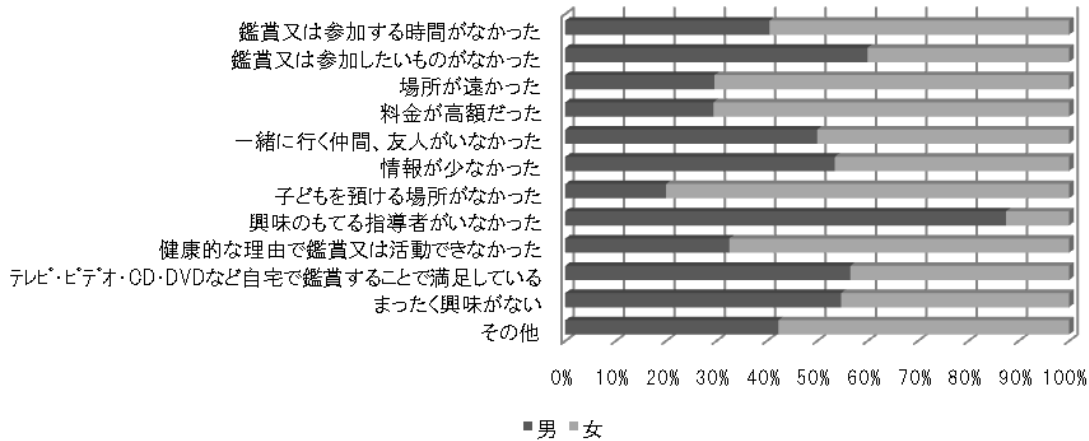
職業別では、「情報が少なかった」、「鑑賞又は参加したいものがなかった」という理由は、「会社員・団体職員」の占める割合が高く、「テレビ・ビデオ・CD・DVD など自宅で鑑賞することで満足している」、「一緒に行く仲間や友人がいなかった」は、「無職」の割合がやや高くなった。年齢別と同様に、「まったく興味がない」理由の半数近くは「学生」である(図 41)。

[図38] 文化施設等で鑑賞、参加・活動しなかった理由

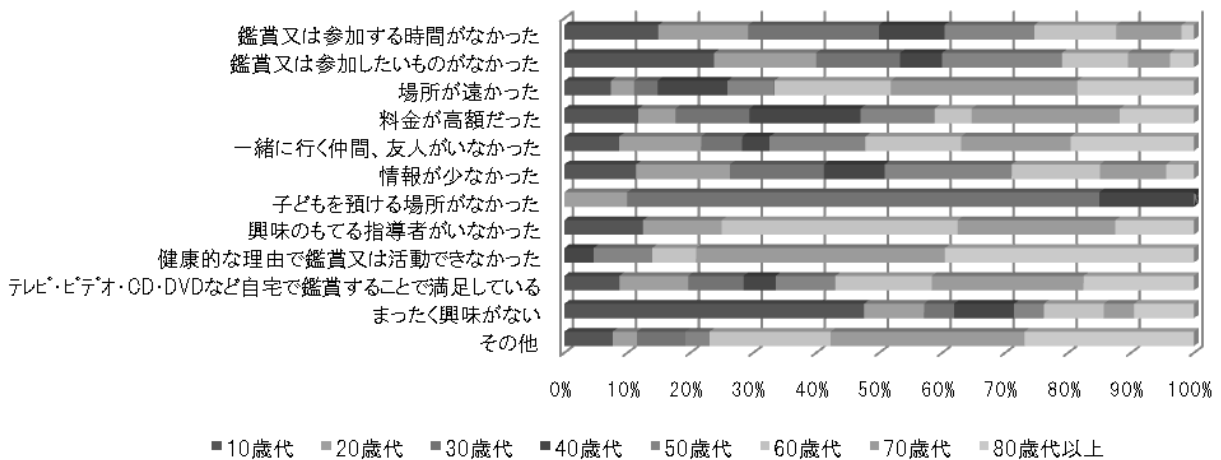


その他: 受験勉強仲(2), 子育てに忙しい・家事のため(2), 心が向かない等

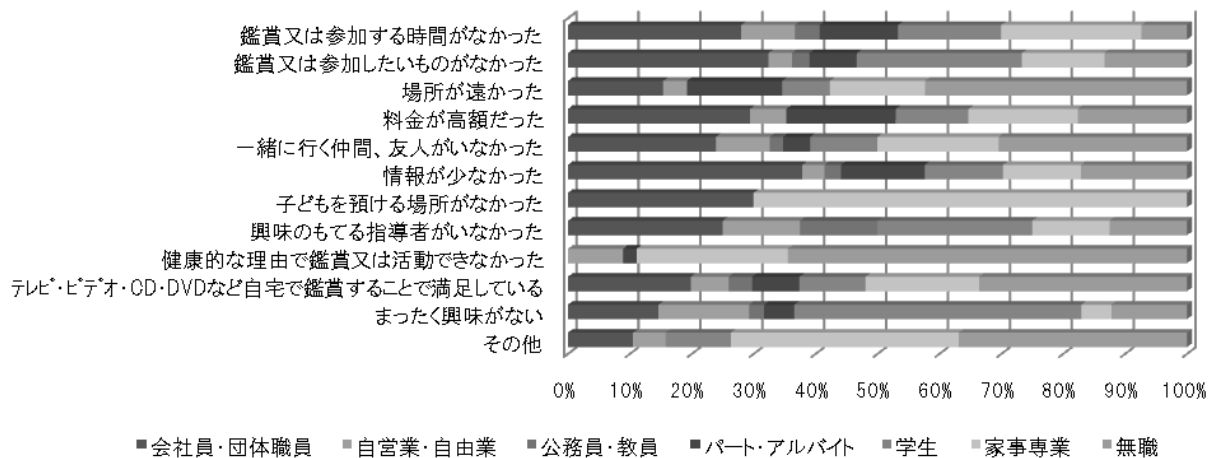
[図39] 文化施設等で鑑賞、参加・活動しなかった理由（男女別）



[図40] 文化施設等で鑑賞、参加・活動しなかった理由（年齢別）



【図41】文化施設等で鑑賞、参加・活動しなかった理由（職業別）



問 14 あなたの幼少期(小学生まで)の文化活動についてあてはまる番号に○印を付けてください。

1. 家族や親せきなどとともに、劇場、美術館、音楽ホールなどの文化施設で芸術鑑賞を行ったことがある
2. 学校の授業の一環として、学校内へ芸術家を招いて行う芸術鑑賞や、劇場、美術館、音楽ホールなどの文化施設で芸術鑑賞を行ったことがある
3. 文化関連の習い事をしてきた（楽器演奏、絵画、ダンス等）
4. 劇場、美術館、音楽ホールなどの文化施設で芸術鑑賞を行う機会がなかった
5. その他（ ）

幼少期の文化活動(体験)について、無回答が約 1 割(103 人)あったものの、最も多かった回答は、「学校の授業の一環として」の鑑賞体験(486)で、わずかの差で、「家族や親せきなどとともに」鑑賞した回答数(447)も多かった(図 42)。文化活動(体験)のあった回答者内訳(表 12)を見てみると、2 の「学校の授業の一環として」のみ○印をつけた人は 197 人で、無回答を除くと、学校以外での活動体験のある回答者は、全体の 6 割を占めることになる。また「その他」として、コンクールに出場したり、専門的に学んだといった記述も見られた。

男女別では、「習い事をしてきた」という回答の約 7 割は女性であり、男性では「機会がなかった」という回答が多い(図 43)。年齢別では、「学校の授業の一環として文化施設で鑑賞した」という割合は若年層ほど高く、「機会がなかった」と答えた回答は、高齢になるほど増加する傾向にあり、「その他」にあるとおり、戦時下の影響で機会がなかったという記述が多かったが、70 歳代以上の中でも、4 割近くは「家族や親せきとともに」鑑賞したという経験があったこともわかる(図 44)。

【表 12】 問 14  
1～3 回答者内訳

回答項目	回答者数
1,2,3含む	162
1,2含む	78
1,3含む	54
2,3含む	81
1のみ	140
2のみ	197
3のみ	89
計	801

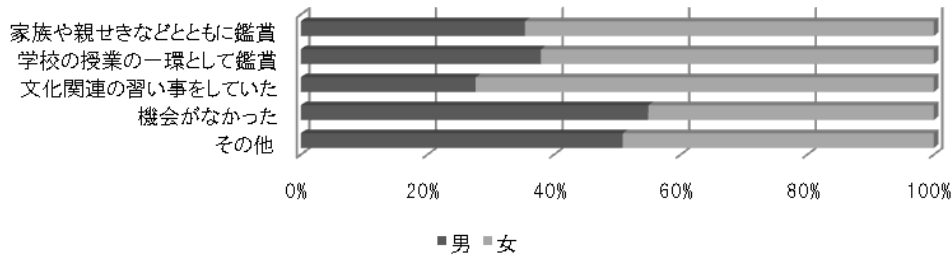
この1年間の文化施設等での活動の有無(問 8)とのクロス集計からは、とりわけ、「習い事をしてきた」回答者の 7 割は、この 1 年間にも文化施設等へ足を運んでいる(図 45)。幼少期に習い事など、継続的に文化芸術に触れる体験は、成人後の芸術鑑賞や文化活動に大きな影響を与えていることが窺えよう。

[図42] 幼少期の文化活動

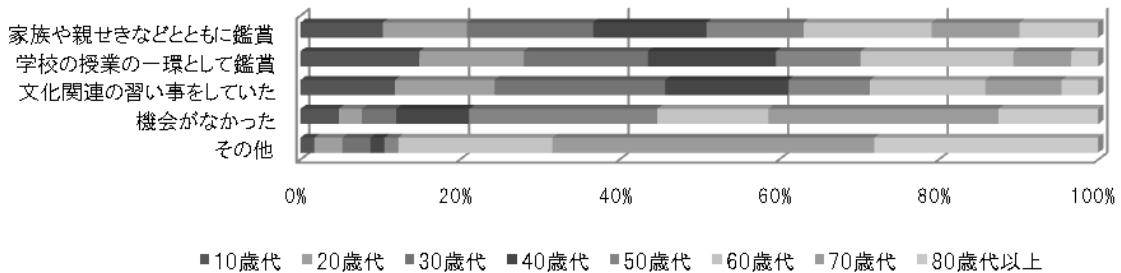


その他:コンクール, 発表会に出た(3), 専門に学んだ, 戦前・戦中・戦後(復興期)のため機会がなかった(計 29)  
田舎のため行くところがなかった, 兄弟が多くて余裕がなかった, 文化系はまったく興味がなかった, 等

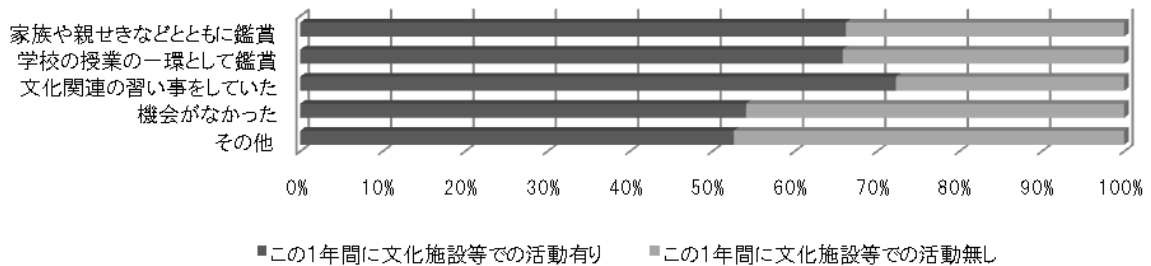
[図43] 幼少期の文化活動 (男女別)



[図44] 幼少期の文化活動 (年齢別)



[図45] 幼少期の文化体験  
(問8 この1年間の文化施設等での活動の有無)





問 15 あなたは文化に関する情報を十分得ることができる状態にあると思いますか。あてはまる番号に○印を付けてください。

1. 思う    2. 思わない    3. わからない

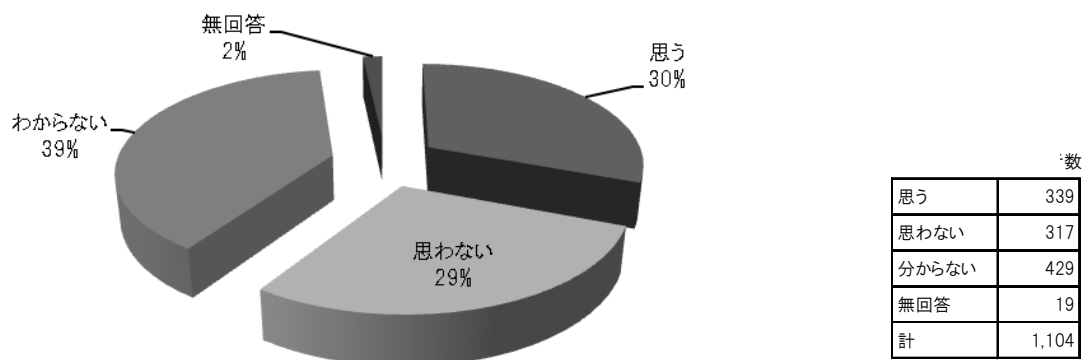
文化に関する情報を十分に得ることができる状態にあると思うかどうかは、非常に主観的な設問ではあるが、「思う」とする回答は3割、「思わない」との回答も、同じく3割となり、「わからない」と答えた人は、残りの4割となった(図46)。

男女別において、「思う」と答えた女性の割合は高めではあるが、その一方、「わからない」との回答も、やや女性比率が高くなっている(図47)。

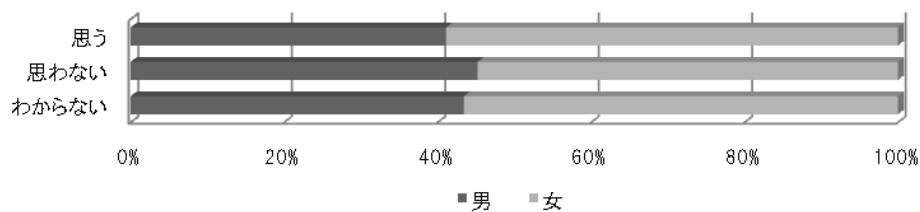
年齢別では、「思う」と答えた人は、60歳代、70歳代の割合が高く、「思わない」と答えた人は、30歳代と50歳代の比率が高い。「わからない」と回答した人は、10歳代に多く、40歳代もやや多くなっている(図48)。

問8「この1年間に文化施設等へ足を運びましたか」とのクロス集計では、想定されるとおり、「思う」と答えた比率は、7割以上となり、一度も足を運ばなかった回答者より3倍以上の回答数であった(図49)。

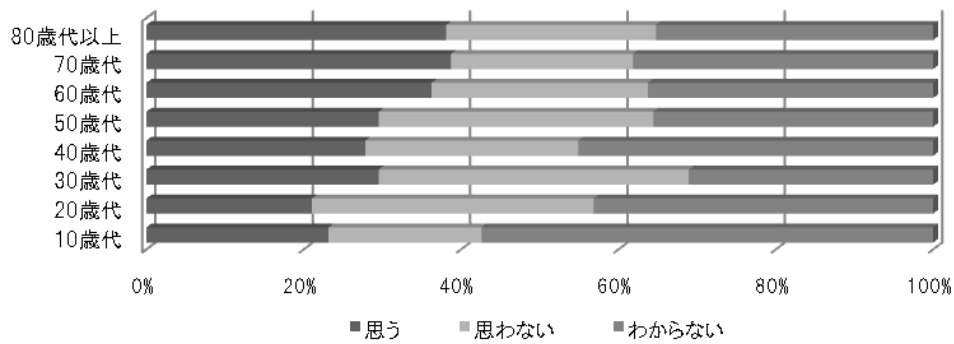
[図46] 文化に関する情報を十分に得ることができる状態だと思いますか



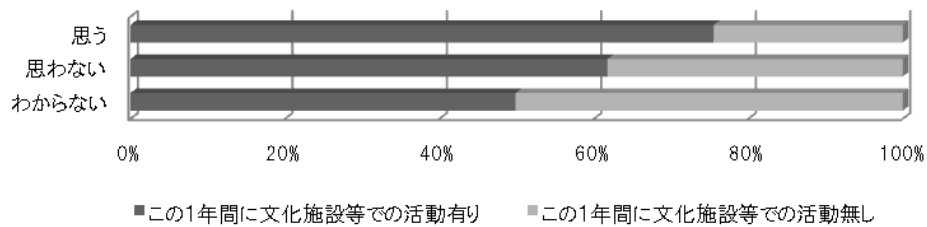
[図47] 文化に関する情報を十分に得ることができる状態だと思いますか (男女別)



[図48] 文化に関する情報を十分に得ることができる状態だと思いますか（年齢別）



[図49] 文化に関する情報を十分に得ることができる状態だと思いますか（問8「この1年間の文化施設等での活動の有無別」）



問 16 文化に関する情報を主にどこから得ていますか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付け、( )内にその名称を記入してください。

1. 新聞	2. 雑誌 ( )	
3. 地域情報誌 ( )		
4. 市の広報紙「あしや」	5. インターネット	6. テレビ
7. ラジオ	8. 友人・知人 (ロコミ)	
9. チラシ・ポスター (入手場所: )		
10. その他 ( )		

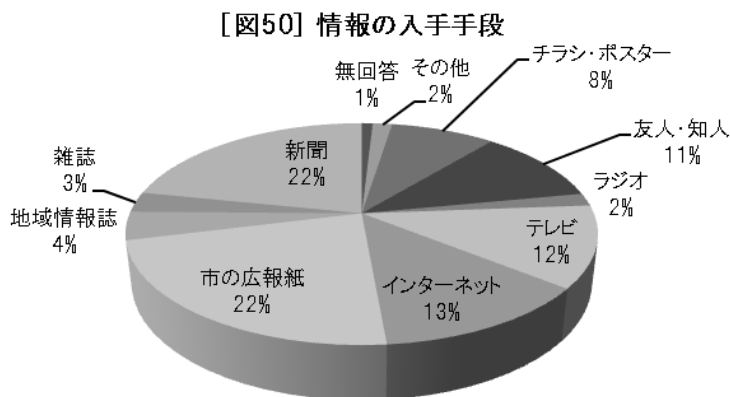
文化に関する情報の入手手段は、「市の広報紙」(回答数 551, 構成比率 22%)と「新聞」(533, 22%)が多く、次いで、「インターネット」(315, 13%),「テレビ」(291, 12%),「知人・友人」(239, 11%)という結果となった(図 50, 51)。「チラシ・ポスター」(209)の多さも注目されることである。その入手場所について、「掲示板」以外に、個別の文化施設名等、具体的な場所の記述が多く、実際の文化活動と連動している結果と考えられよう。他の場所としては、とりわけ駅、電車、バス停等が多く、学校からの配布も多い。

情報の入手手段については、男女別、年齢別に明確な差が表れている。まず男性比率の高い媒体として、「インターネット」、「ラジオ」、「雑誌」があり、「新聞」と「テレビ」もやや高い。それに対して、女性は、「友人・知人」と「チラシ・ポスター」での割合が高く、「地域情報誌」と「市の広報紙」における比率も、やや高くなっている(図 52)。

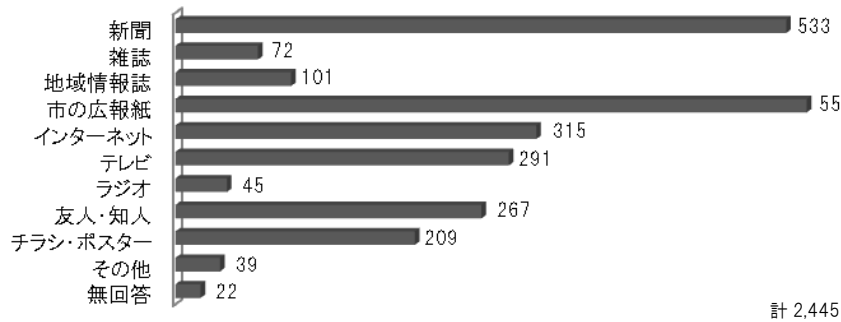
年齢別では、「新聞」、「雑誌」、「テレビ」はすべての年代が活用しているが、「新聞」に関しては 50 歳代から 70 歳代が多く、「ラジオ」は、50 歳代以上で 8 割を占めている。「市の広報紙」については、40 歳代がやや少ないものの、30 歳代以上で 9 割以上となる。「地域情報誌」、「友人・知人」と「チラシ・ポスター」は、比較的若い年代が占める割合が高く、「インターネット」は 50 歳代まで、すでに 8 割以上を占めるまでになっている(図 53, 表 14)。

問 8「この 1 年間に文化施設等へ足を運びましたか」とのクロス集計では、足を運んで活動した回答者の情報入手手段は、回答数としては、市の広報紙、新聞が多いが、媒体別比率としては、チラシ・ポスター、友人・知人で高くなっている(図 54)。

問 15「文化に関する情報を十分に得ている状態にあると思いますか」とのクロス集計では、全体の構成比(図 46)から考えると、「情報を得ている状態にあると思う」という回答者比率の高い媒体は、「雑誌」、「市の広報紙」と「地域情報誌」であり、「新聞」と「インターネット」においてもやや高くなっている。「テレビ」と「ラジオ」は「わからない」と答えた人の占める割合がやや高いが、「ラジオ」は、「テレビ」よりも「情報を得ている状態にあると思う」という回答者の割合は高い(図 55)。



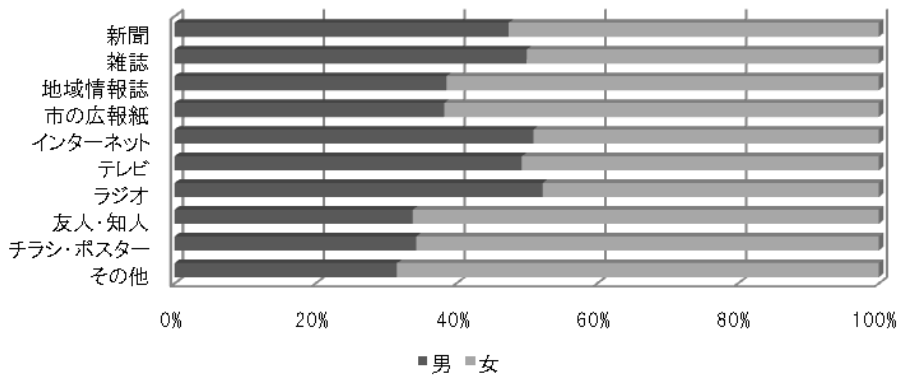
[図51] 情報の入手手段



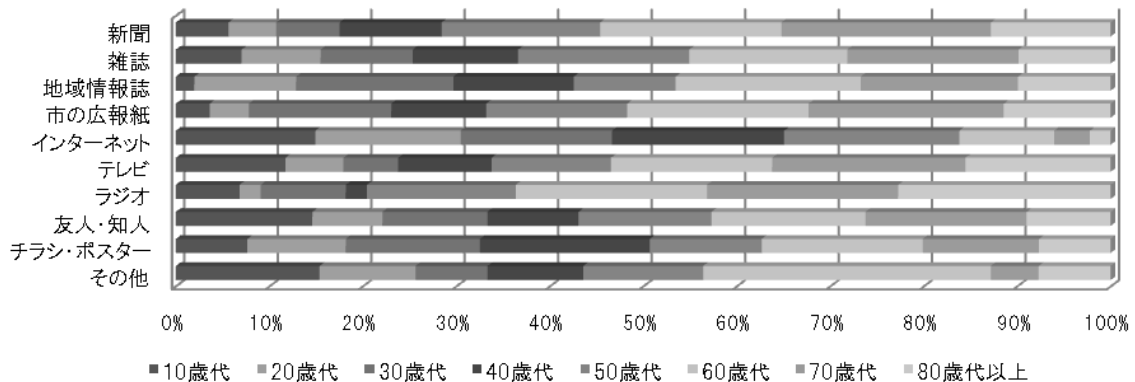
■記述内容

- 2.雑誌名 ぴあ、『SAVVY』などLマガジン系、関西ウォーカー、ELLE、seventeen、日経エンターテインメント月刊文藝春秋、週刊文春、週刊新潮、高島屋クレジット、デーズジャパン、同人誌、ラグビーマガジン等
- 3.地域情報誌 朝日ファミリー、自治会報、シティウェブ、リビング芦屋・西宮、若葉だより、シティハウス等
- 9.チラシ・ポスター入手先 掲示板〔駅除く〕(27)、JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅、駅、バス(22)、電車吊り広告(4)、街角・街頭(2)美術館、映画館、劇場・ホール等 (17)、市民センター (13)、図書館 (9)、公民館・集会所・コミスク等(8)市民会館(4)、市役所(3)、保育園、幼稚園、小中学校〔子どもの学校から配布〕(13)DM(県芸術文化センターの会員等)(8)、新聞折込(3)、チケットオフィス(2) 他
- その他 家族から(5)、文化団体・部活動 (3)、勉強会・会合(2) 他

[図52] 情報の入手手段（男女別）



[図53] 情報の入手手段（年齢別）

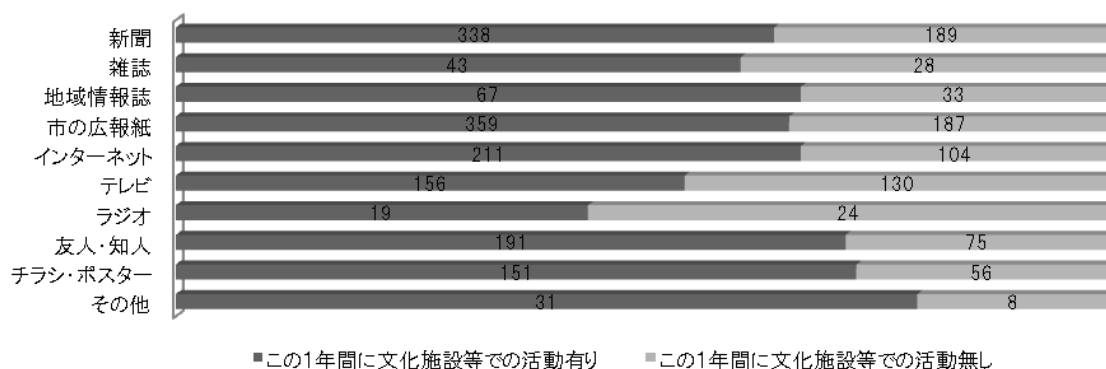


[表 14] 問 16 年代別回答数

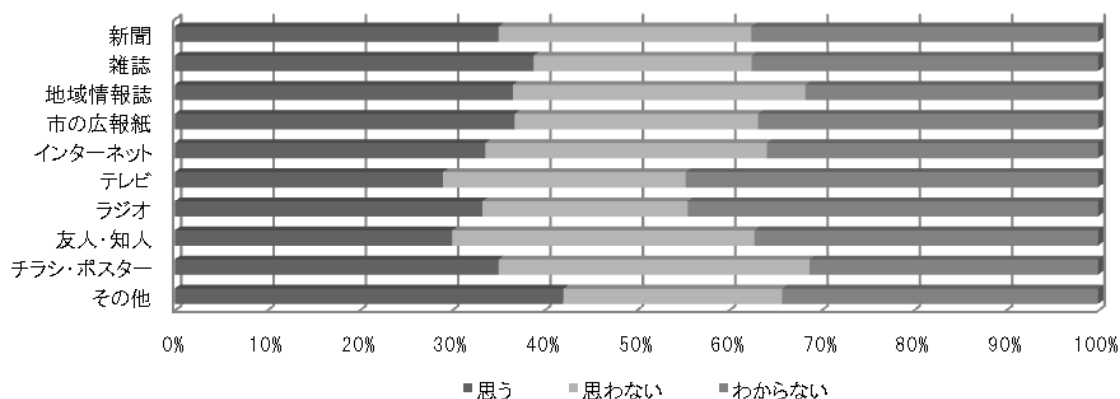
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	計
1 新聞	30	27	36	58	90	103	119	68	531
2 雑誌	5	6	7	8	13	12	13	7	71
3 地域情報誌	2	11	17	13	11	20	17	10	101
4 市の広報紙	20	23	84	56	83	107	115	63	551
5 インターネット	47	49	51	58	59	32	12	7	315
6 テレビ	34	18	17	29	37	50	60	45	290
7 ラジオ	3	1	4	1	7	9	9	10	44
8 友人・知人	39	20	30	26	38	44	46	24	267
9 チラシ・ポスター	16	22	30	38	25	36	26	16	209
10 その他	6	4	3	4	5	12	2	3	39
計	202	181	279	291	368	425	419	253	2418

注) 問 16 無回答者 22 と年齢無回答者 2 除く

[図54] 情報の入手手段（問8 この1年間の文化施設等の活動の有無別）



[図55] 情報の入手手段  
(問15 「文化に関する情報を十分に得ていると思いますか」回答別)



問 17 文化の鑑賞又は参加、活動において、どのような情報を必要としていますか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

1. 市内で催される公演や展覧会などの情報
2. 市外で催される公演や展覧会などの情報
3. 公演や展覧会などの専門家による批評、おすすめ情報
4. 市内で活動している芸術家・アーティストの情報
5. 市内の文化施設や文化財等の情報
6. 市内の稽古場、練習場所やアトリエ、教室などの情報
7. 市内の文化団体、文化に関するNPO(非営利団体)などの情報
8. 外国語や点字などでの情報
9. その他 ( )

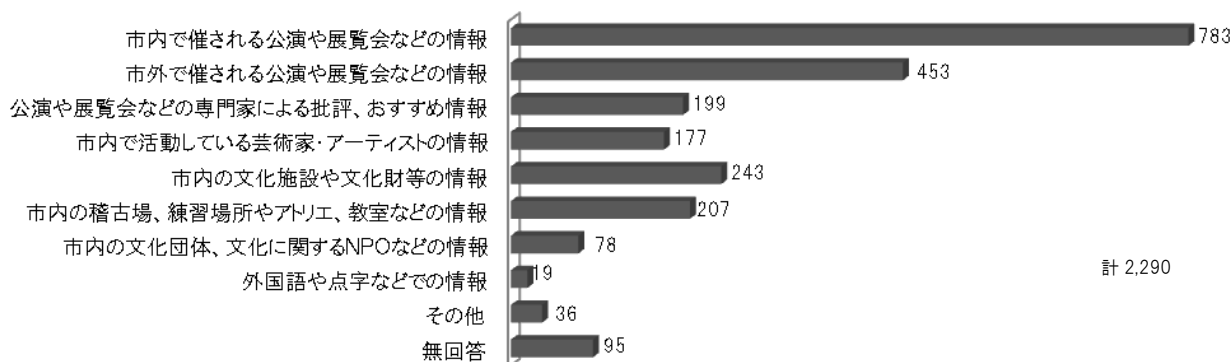
文化の鑑賞又は参加、活動において、必要とされている情報としては、「市内で催される公演や展覧会などの情報」(783)、次に「市外で催される公演や展覧会などの情報」(453)となり、両者を合わせると、全体の 54%を占める結果となった。その次に、「市内の文化施設や文化財等の情報」(243)、「市内の稽古場、練習場所やアトリエ、教室などの情報」(207)、「公演や展覧会などの専門家による批評、おすすめ情報」(199)、そして「市内で活動している芸術家・アーティストの情報」(177)が続いている。市内外の公演や展覧会情報を除くと、市内の文化施設や文化財、稽古場や練習場所など、施設に関する情報に対する要望が比較的に高いことがわかる(図 56)。

男女別では、「市内の文化施設や文化財等の情報」については、男性比率が高く、「市内の稽古場、練習場所やアトリエ、教室などの情報」と「市内の文化団体、文化に関するNPOなどの情報」、また回答数は少ないものの、「外国語や点字などでの情報」も、女性比率が高い(図 57)。

年齢別では、「市内の稽古場、練習場所やアトリエ、教室などの情報」と「公演や展覧会などの専門家による批評、おすすめ情報」については、30 歳代までの若い世代が、約 4 割を占め、この点が特徴的と言えるだろう(図 58)。

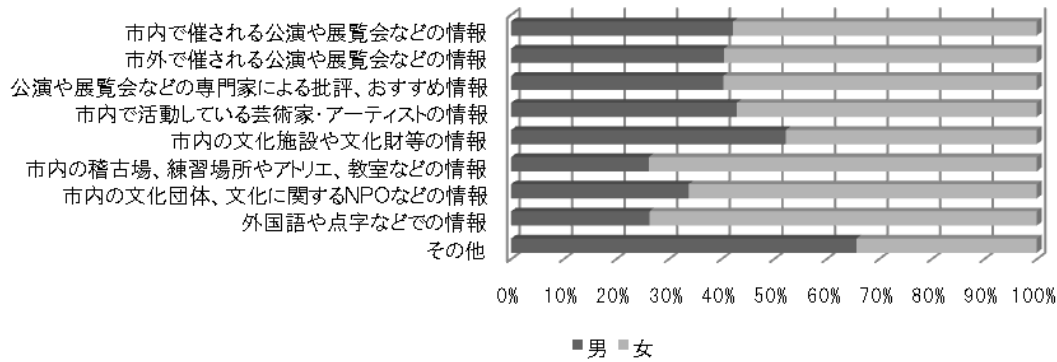
問 8「この 1 年間に、文化施設等で文化を鑑賞したり、参加、活動するために足を運ばれましたか」とのクロス集計では、「はい」の回答者が占める割合が多い項目は、特に「市外で催される公演や展覧会などの情報」であり、問 10 において、市外、県外の文化施設の回答が多いことから、想定されるものであろう(図 25, 図 59)。

[図56] 文化に関して必要とする情報

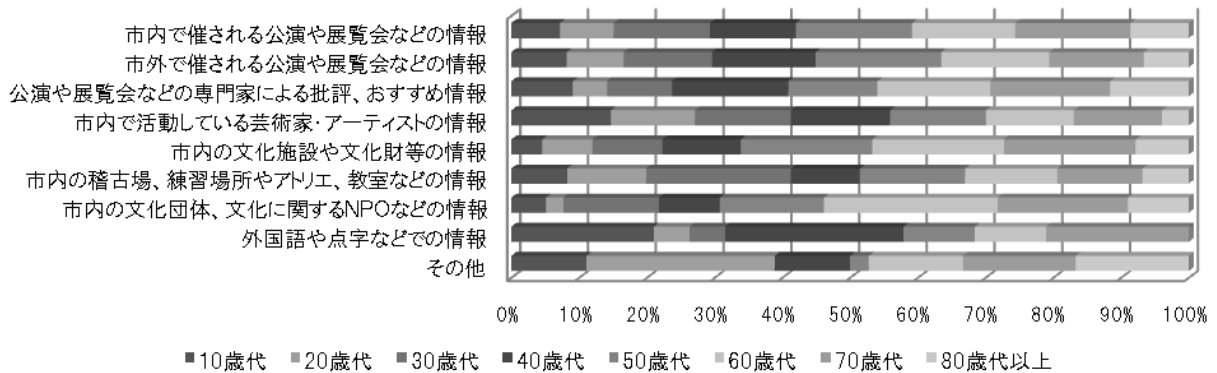


その他: ボランティアに関する情報(2)、語学学習に関する情報(2)、市民の文化活動発表会の情報、海外情報、専門家の情報。新聞、市報で十分。特になし/必要としない/わからない/健康上考えられない/参加する余裕無し等(14)。

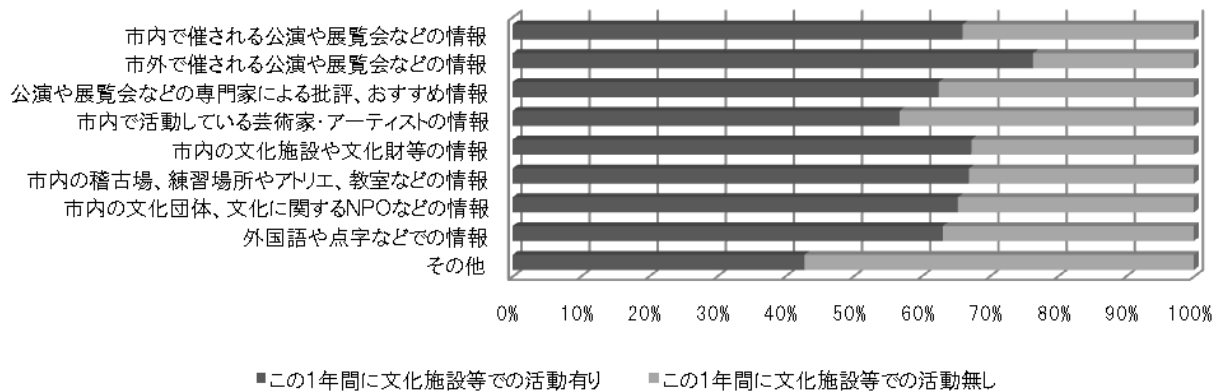
[図57] 文化に関して必要とする情報（男女別）



[図58] 文化に関して必要とする情報（年齢別）



[図59] 文化に関して必要とする情報（問8 この1年間の文化施設等での活動の有無別）

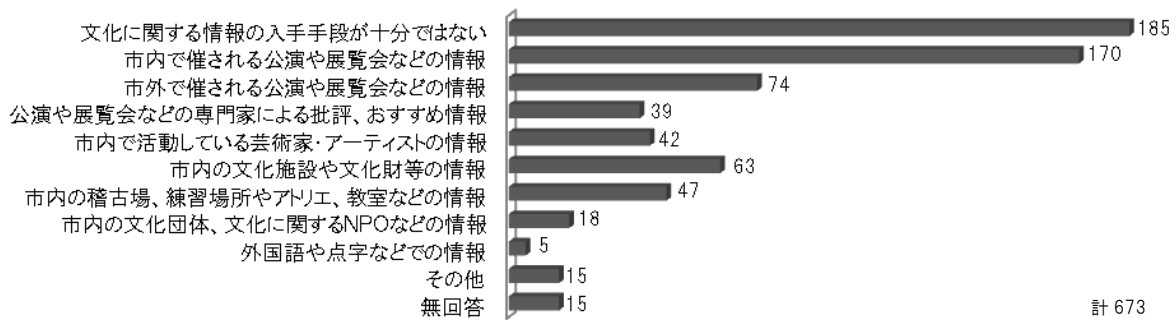


問 18 問 15 で「2. 思わない」と答えられた方にお伺いします。文化に関する情報を十分得ることができる状態にあると思わない理由はなんですか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

1. 公演や展覧会など文化に関する情報の入手手段が十分ではない
2. 市内で催される公演や展覧会などの情報が十分ではない
3. 市外で催される公演や展覧会などの情報が十分ではない
4. 公演や展覧会などの専門家による批評、おすすめ情報が十分ではない
5. 市内で活動している芸術家・アーティストの情報が十分ではない
6. 市内の文化施設や文化財等の情報が十分ではない
7. 市内の稽古場、練習場所やアトリエ、教室などの情報が十分ではない
8. 市内の文化団体、NPOなどの情報が十分ではない
9. 外国語や点字などでの情報が十分ではない
10. その他 ( )

文化に関する情報を十分に得ることができると思わないと回答した人(321 人)の、大きな理由は、「公演や展覧会など文化に関する情報の入手手段」(185)と「市内で催される公演や展覧会などの情報」(170)が十分でないとの回答が多く、次に「市外で催される公演や展覧会などの情報」(74)や「市内の文化施設や文化財等の情報」(63)、「市内の稽古場、練習場所やアトリエ、教室などの情報」(47)となった(図 60)。「情報の入手手段」を除くと、問 17 の必要としている情報と同じである。わずかな違いではあるが、順位が逆になった項目は、「市内で活動している芸術家・アーティストの情報」が、「公演や展覧会などの専門家による批評、おすすめ情報」より上回ったことである。「その他」のところでは、「媒体の選択が重要」、あるいは「効果的な情報発信の方法や工夫が必要」といった記述が寄せられている。

〔図60〕文化に関する情報が十分でない思う理由



(その他)

- ・情報量ではなく、媒体の選択が効果的でない。若い人は「あしや」に目を通さない。折り込みチラシの方がまだベター。
- ・文字の羅列ではインパクトがなく、又、興味のない分野やアーティストを見てもよと思わせる工夫がない。
- ・公共の場駅前の掲示板に情報を貼ってあると情報を入手しやすいです。
- ・そもそも芦屋市には魅力的な公演が来ないし、子供たちにみせたい高い水準の科学館、博物館がないため、大阪、神戸(あるいは東京も)足をのばすことになってしまう。したがって自然にはいつてくる情報も少ない。/有名な美術展がない。(2)
- ・市内での催しのPRを市民向けにだけ行うのでなく、もっと広くPR する必要がある。例えば尼崎のアルカイクホールでの催しは新聞の広告欄で行なっている。/ネットなどで地域情報をまとめたものがあると便利かも。(2)
- ・関心を持つことが少ない。/キョウミがないので、情報があってもスルーしてしまう。/興味が沸くものがなかった。(3) 他



問19 みなさんが文化を鑑賞または参加、活動するためにどのような公演や展覧会等の内容が一層充実されるべきと思いますか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

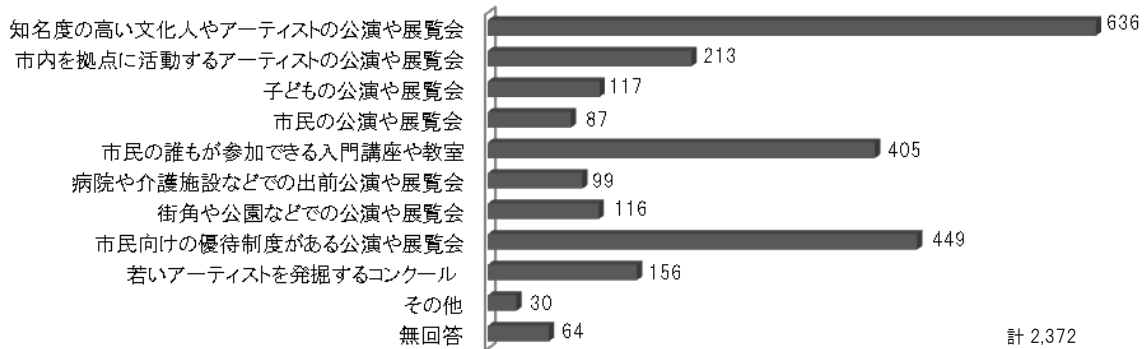
1. 知名度の高い文化人やアーティストの公演や展覧会
2. 市内を拠点に活動するアーティストの公演や展覧会
3. 子どもの公演や展覧会
4. 市民の公演や展覧会
5. 市民の誰もが参加できる入門講座や教室
6. 病院や介護施設などでの出前公演や展覧会
7. 街角や公園などでの公演や展覧会
8. 市民向けの優待制度（チケット割引など）がある公演や展覧会
9. 若いアーティストを発掘するコンクール
10. その他（ )

今後、充実すべき公演や展覧会といった文化事業の内容については、「知名度の高い文化人やアーティストの公演や展覧会」(636)が最も多く、次に「市民向けの優待制度がある公演や展覧会」(449)と「市民の誰もが参加できる入門講座や教室」(405)、そして「市内を拠点に活動するアーティストの公演や展覧会」(213)、その次に「若いアーティストを発掘するコンクール」(156)となった(図 61)。

年齢別にみた場合、最も回答の多かった「知名度の高い文化人やアーティストの公演や展覧会」は、各年代がほぼ均等の割合ではあるが、全体の構成比を考慮すると、40歳代までの若い世代がやや多くなっている。「若いアーティストを発掘するコンクール」については、とりわけ10歳代の占める割合が高く、40歳代までの年代で6割近くとなった。「子どもの公演や展覧会」は、30歳代を中心として40歳代を含めると、約5割となり、同様に、「街角や公園などでの公演や展覧会」についても、20歳代から40歳代で、5割近くを占めている。反対に、50歳代以上が占める割合が高い項目は、「市民の公演や展覧会」と「市内を拠点に活動するアーティストの公演や展覧会」であり、「病院や介護施設などでの公演や展覧会」や「市民の誰もが参加できる入門講座や教室」も、やや高くなっている。「市民向け優待制度がある公演や展覧会」に関しては、20歳代の割合が低いものの、すべての年代から望まれていることがわかる(図 62)。

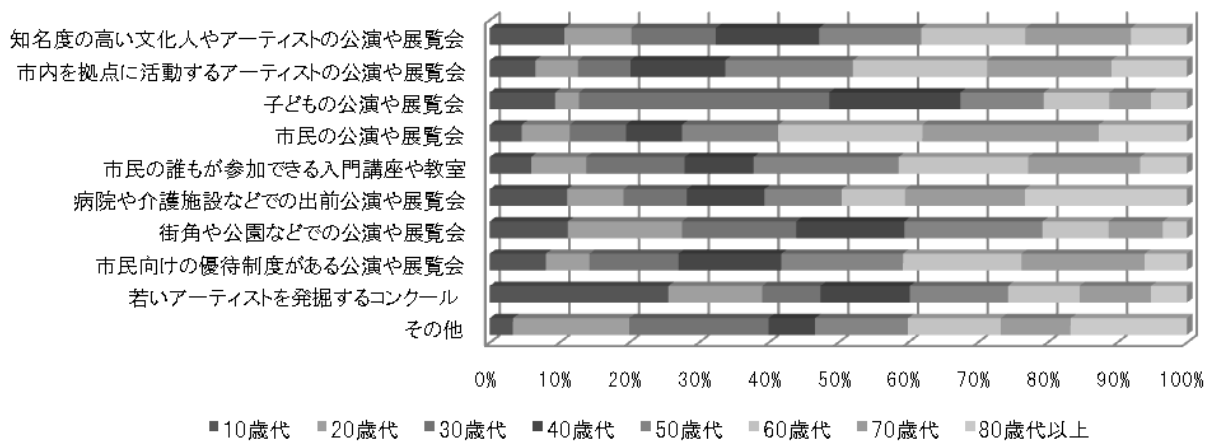
問8「この1年間に、文化施設等で文化を鑑賞したり、参加、活動するために足を運ばれましたか」とのクロス集計では、「はい」の回答者が占める割合は、「市内を拠点に活動するアーティストの公演や展覧会」が高く、その他、「市民の公演や展覧会」、「市民の誰もが参加できる入門講座や教室」、「市民向けの優待制度がある公演や展覧会」に加え、「子どもの公演や展覧会」の比率もやや高くなっている。それに対して、「いいえ」の回答者比率の高い事業は、「病院や介護施設などでの公演や展覧会」である(図 63)。

〔図61〕 充実されるべき文化事業の内容

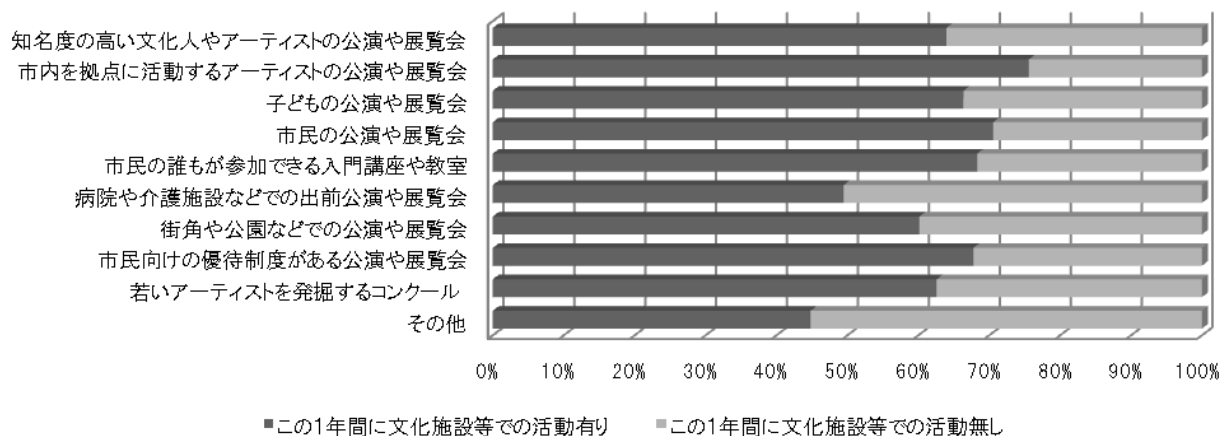


その他:耳が不自由な人にも楽しめるイベント, 子どもと一緒に参加できるもの  
芸術性の優れた文化人やアーティストの公演や展覧会, 素人のアーティストが気軽に参加できるカジュアルコンクール他

〔図62〕 充実されるべき文化事業の内容（年齢別）



〔図63〕 充実されるべき文化事業の内容  
（問8 この1年間に文化施設等での活動の有無別）



問 20 みなさんがもっと活発に文化活動へ参加するためには、文化施設はどうあればよいと思いますか。特に重要だと思う番号に3つ以内で○印を付けてください。

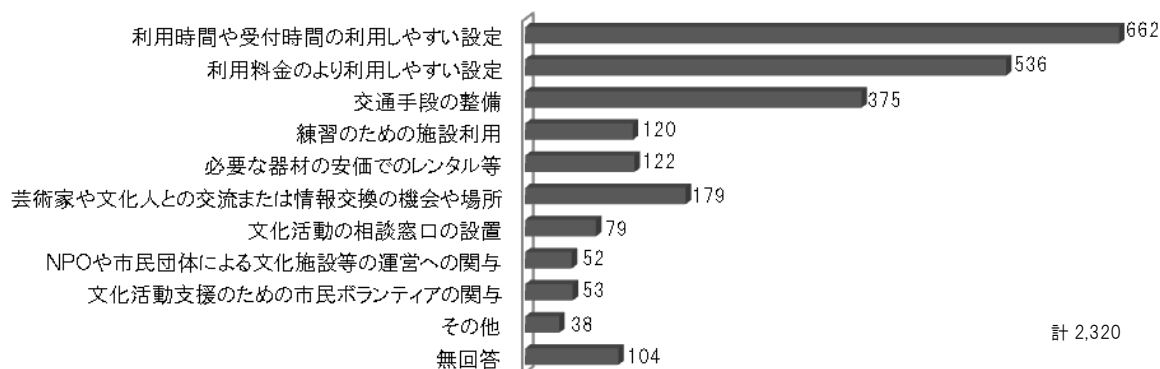
1. 利用時間や受付時間が利用しやすいように設定されている
2. 利用料金が利用目的や申込時期などによって利用しやすいように設定されている
3. 交通手段（駅と文化施設をつなぐバスなど）がより整備されている
4. 練習のためのスタジオや創作のためのアトリエとして利用できる
5. 活動に必要な器材（録音機器、楽器など）が安価でレンタルできる
6. 芸術家や文化人との交流または情報交換をする機会や場所がある
7. 文化活動の相談窓口がある
8. NPO（非営利団体）や市民団体が主体的に文化施設等の運営に関わっている
9. 鑑賞案内や芸術家などの活動を支援できる市民ボランティアが関わっている
10. その他（ ）

文化施設等の運営に関して特に重視する点は、「利用時間や受付時間が利用しやすいように設定されている」(662)が最も多く、次に「利用料金が利用目的や申込時期などによって利用しやすいように設定されている」(536)、その次に「交通手段がより整備されている」(375)となり、基本的な利用条件を重視する意見が多いことがわかる。これら以外の項目のなかで、「芸術家や文化人との交流または情報交換をする機会や場所」(179)の回答数がやや多くなっている(図 62)。「その他」では、「駐車場の整備」に関する記述が多く、運営面では「プロデューサーの必要性」や「誰もが利用しやすい雰囲気づくり」などが挙げられ、ここでも情報発信面での工夫が求められている(図 64)。

年齢別では、各年代のニーズに沿った形で、30 歳代までの若い世代が占める割合の高い項目は、少数派の意見ながら、「練習のためのスタジオや創作のためのアトリエとして利用できる」や「活動に必要な器材が安価でレンタルできる」となり、50 歳代以上で、「NPOや市民団体が主体的に文化施設等の運営に関わっている」回答において、高い割合を占めている(図 65)。

問8「この1年間に、文化施設等に足を運ばれましたか」とのクロス集計では、「はい」の回答者が占める割合が多い項目は、「芸術家や文化人との交流または情報交換の機会や場所」で、回答数は少ないものの、「文化活動の相談窓口がある」、「NPOや市民団体が主体的に文化施設等の運営に関わっている」や「鑑賞案内や芸術家などの活動を支援できる市民ボランティアが関わっている」などの比率も高くなっている。一方、「いいえ」の回答者は、「活動に必要な器材が安価でレンタルできる」ことの比率がやや高い(図 66)。

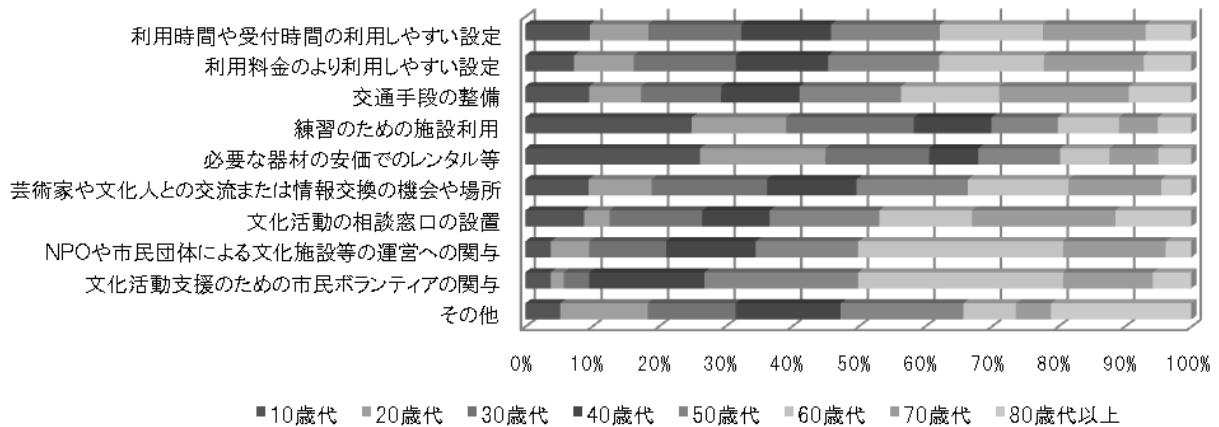
[図64] 文化施設等の運営で重視する点



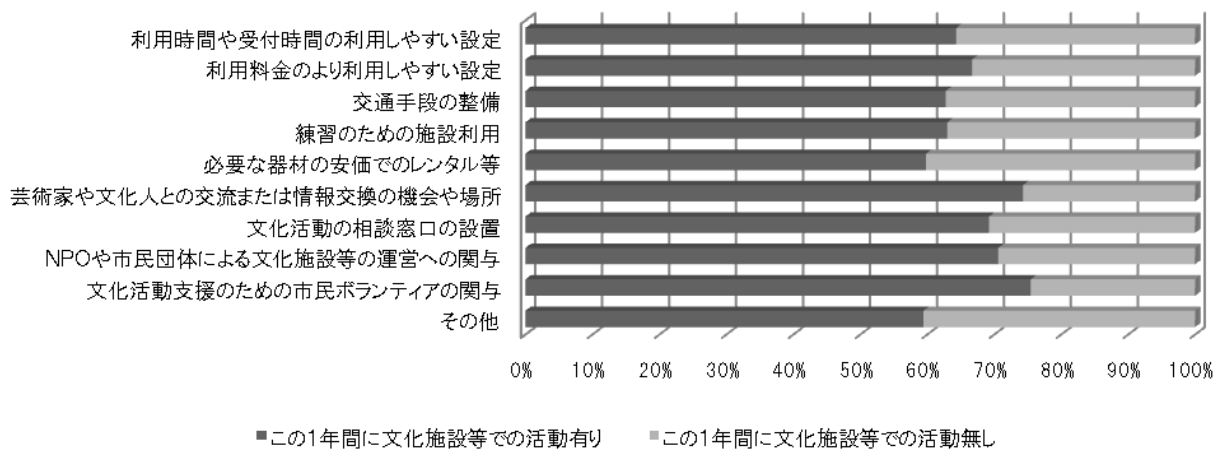
(その他)

- ・駐車場整備の必要性(7)、子供も同伴できること(2)
- ・芦屋市が面白いことをやっていること・・・と評価されるようなことをしていること、告知もしっかりしていること
- ・何の活動がいつあるのか駅前の掲示板など人の目の付く所に情報を載せる。
- ・文化施設の周辺に(あるいは施設内に)ほっとくつろげる場所(カフェ等)のなさ
- ・面白い企画を外注してもいいので、作成して変化させつつ、育てていく。発案と継続性が必要。
- ・きちんとしたプロデューサーが運営すること。
- ・特定の人以外が参加できるふいんきづくり
- ・特になし/わからない(5)

[図65] 文化施設等の運営で重視する点 (年齢別)



[図66] 文化施設等での運営で重視する点  
(問8 この1年間の文化施設等での活動の有無別)



問 21 あなたが大切にしたい芦屋の文化的な資源について、あてはまる番号に3つ以内で○印を付け、それらの( )内に具体的な名称をご記入ください。

1. 自然や景観 ( )
2. 町並み、公園 ( )
3. まちの歴史や歴史的建造物・遺跡 ( )
4. 伝統行事・祭り ( )
5. 文化行事・イベント ( )
6. 芦屋ゆかりの文化人・芸術家 ( )
7. 文化施設等 ( )
8. その他 ( )

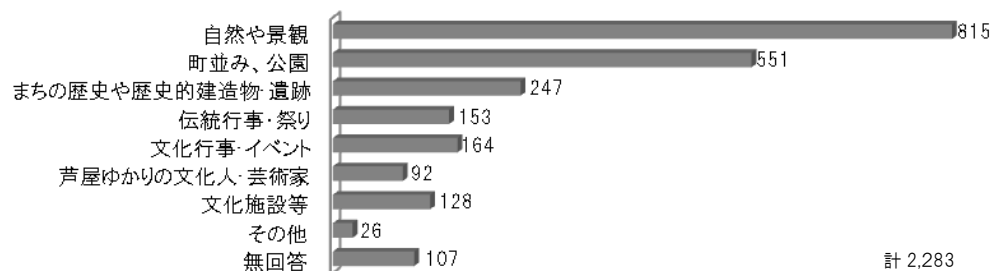
大切にしたい芦屋の文化的な資源については、「自然や景観」(815)が突出しており、無回答を差し引くと、問 21 の回答者の 8 割以上が選択していることになる。次に、同じく地域環境に関係する「町並み、公園」(551)となり、両方で回答数の 6 割となった。これら以外では、「まちの歴史や歴史的建造物・遺跡」(247)が多く、次に「文化行事・イベント」(164)と「伝統行事・祭り」(153)となるが、輩出した文化人・芸術家、現存する歴史的建造物の多さからも、それらの回答数も少数ではないと言える。「文化行事・イベント」と「伝統行事・祭り」は、表 14 の注意書きにあるとおり、具体的な名称が、両方に混在する傾向があり、表 14 の分類どおりに修正した結果である(図 67)。

年齢別では、上位 2 項目は、すべての年代からほぼ全体の構成比と同じ割合となっているが、花火大会などを含む「文化行事・イベント」については、30 歳代までの若年層が占める割合が高く、想定されるとおり、「まちの歴史や歴史的建造物・遺跡」は、50 歳代以上の割合が高い(図 68)。

地域別では、「芦屋ゆかりの文化人・芸術家」と「まちの歴史や歴史的建造物・遺跡」は、山手小学校区、「文化行事・イベント」は、精道小学校区、「文化施設等」では、浜風小学校区が占める割合がやや高いものの、顕著な地域的な特徴は見られないと言えるだろう(図 69)。

また居住年数別においては、上位 2 項目を除くと、一般的に想定されるとおり、10 年以上の居住している回答者は、「まちの歴史や歴史的建造物・遺跡」、「伝統行事・祭り」と「芦屋ゆかりの文化人・芸術家」において、わずかながら占める割合が高くなっている(図 70)。

[図67] 大切にしたい芦屋の文化的な資源



[表 15] 問 21 具体的な名称

\*( )内は複数回答数

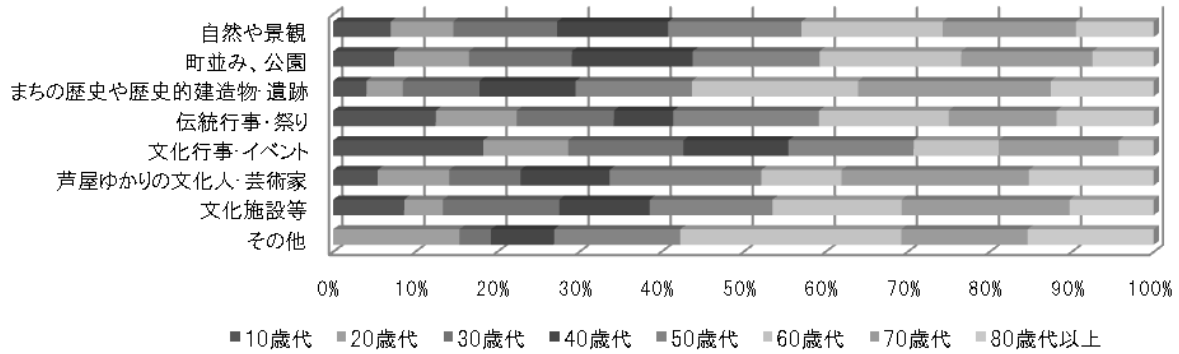
項目	記述数	具体的な名称
1 自然や景観	428	「芦屋川」(290), 「ロックガーデン」(24), 「芦屋浜」(22), 「六甲山」(21), 「高座の滝」(18), 「奥池」(10), 「お多福山」(2), 「仲池」(2), 「宮川」, 「動物霊園付近」, 「南芦屋浜」, 「城山」, 「岩園」など
2 町並み、公園	231	〔町並み〕 芦屋川沿い(28), JR 芦屋近辺(4), 「鳴尾・御影線界限」, 「春日町, 打出小槌町の街並み」他 〔公園〕 「芦屋公園」(44), 「中央公園」(13)他
3 まちの歴史や歴史的建造物・遺跡	92	〔まちの歴史〕 「谷崎潤一郎」(記念館含む, 7), 「伊勢町の歴史」, 「あしや子ども風土記」他 〔歴史的建造物〕 「ヨドコウ迎賓館」(31), 「打出旧図書館」(6), 「芦屋警察」, 「芦屋カトリック教会」, 「仏教会館」等 〔遺跡〕 「会下山遺跡」(17), 「阿保親王塚」(9), 「金津山古墳」(3), 「打出小槌古墳」(2)他
4 伝統行事・祭り	63	「秋祭り・芦屋祭り・だんじり」(55), 「地藏盆」(2), 「てんじん祭り」等
5 文化行事・イベント	123	「さくら祭り」(57), 「花火大会」(51), 「芦屋サマーカーニバル」(30), 「あしやいち」(2) 「オータムフェスティバル」等
6 芦屋ゆかりの文化人・芸術家	46	「谷崎潤一郎」(31), 「富田碎花」(7), 「村上春樹」(6), 「高浜虚子」(5), 「小川洋子」(2), 「貴志康一」, 「吉原治良」他
7 文化施設等	81	「図書館(打出分室含む)」(35), 「ルナ・ホール」(34), 「美術博物館」(12), 「谷崎潤一郎記念館」(10), 「富田碎花旧居」(3), 「ヨドコウ迎賓館」(3), 「滴翠美術館」(2), 「俵美術館」, 「打出教育文化センター」, 「上宮川文化センター」, 「コミスク」他
8 その他	30	「芦屋国際ローンテニスクラブ」, 「コミスクの夏祭り」, 「甲南学園, 芦屋学園, 甲南女子学園」, 「姉妹都市との人的交流」, 「高級感」, 「パチンコ店やゲームセンター, キャバレー, 風俗店がない所」他

注 1) 具体的な名称は、例えば、「1.自然・景観」の項目の「芦屋川」に関しては、「芦屋川の桜並木」, 「芦屋川の松並木」, 「芦屋川のホタル」, 「芦屋川流域」, 「芦屋川河畔」など、多様な表現が見られたが、「8.その他」の項目以外は、固有名称に統一し、回答数を合算した。

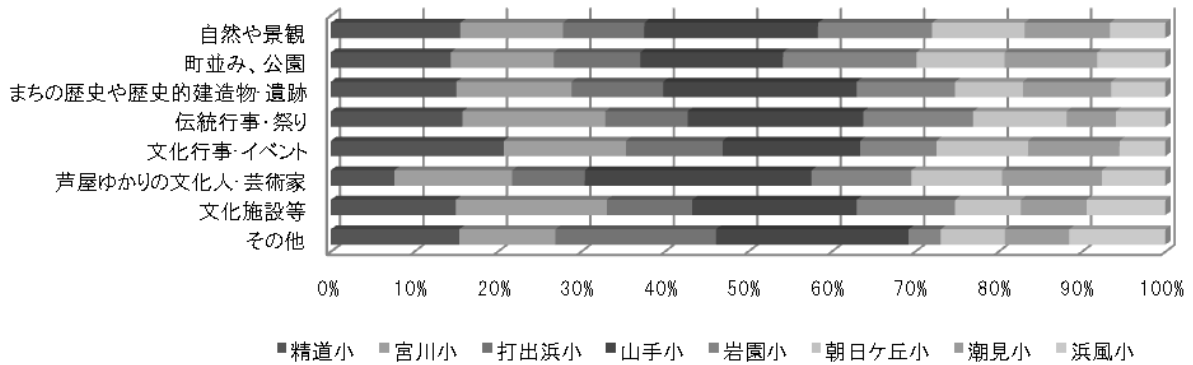
注 2) 「4.伝統行事・祭り」と「5.文化行事・イベント」については、両者に混在していた具体的な名称を分類整理し、修正して合算した。

注 3) 公園名として「松浜公園」という記述が多く見られたが、実際の名称は「芦屋公園」であるため、「芦屋公園」に統一した。

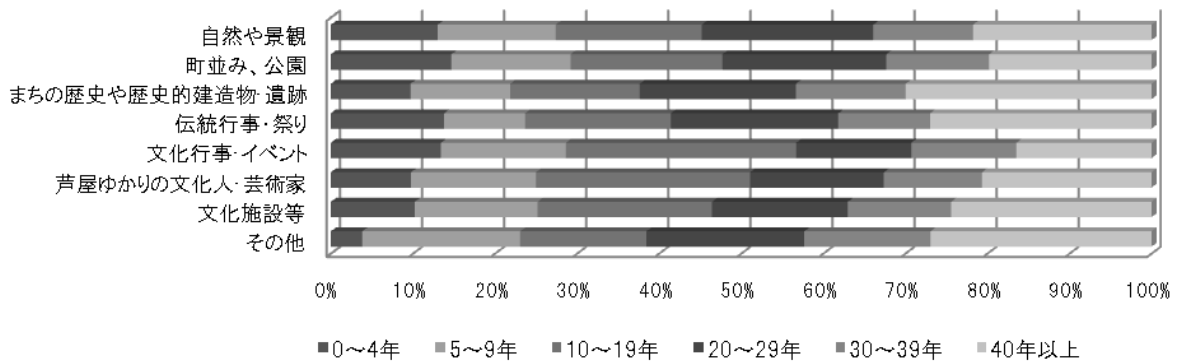
[図68] 大切にしたい芦屋の文化的な資源（年齢別）



[図69] 大切にしたい芦屋の文化的な資源（地域別）



[図70] 大切にしたい芦屋の文化的な資源（居住年数別）



問 22 「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために、あなたが特に重視することは何ですか。あてはまる番号に3つ以内で○印を付けてください。

1. 自然・景観が保存・整備され、町並みに調和している
2. 各地域の伝統文化や祭りが市民に認識され、継承されている
3. 市民が芦屋の歴史をよく理解し、文化財や歴史的建造物を大切にしている
4. 市民が質の高い多様な文化に触れる機会が充実している
5. 市民が文化に関心を持ち、市民による文化活動が盛んである
6. 市民による文化活動の立ち上げや継続に必要な支援制度がある
7. 次代を担う子どもに文化に触れる機会が充実している
8. 国際的な文化交流が盛んである
9. 文化に関する人材育成が行われており、指導者・後継者が育っている
10. 文化に関する情報が十分に提供されている
11. 他市から芦屋の文化施設や実施される文化事業等のために訪れる人が多い
12. 多くの文化人や芸術家が居住、又は活動の拠点としている
13. 福祉・教育・まちづくりなど、さまざまな政策に文化を活用している
14. その他 ( )

「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために特に重視することについて、最も多かった回答は、「大切にしたい芦屋の文化的な資源」の結果と同じく、「自然・景観が保存・整備され、町並みに調和している」(849)となった。それ以外では、「市民が質の高い多様な文化に触れる機会が充実している」(265)、「市民が芦屋の歴史をよく理解し、文化財や歴史的建造物を大切にしている」(255)、「次代を担う子どもに文化に触れる機会が充実している」(244)が多く、その次に「各地域の伝統文化や祭りが市民に認識され、継承されている」(151)、「福祉・教育・まちづくりなど、さまざまな政策に文化を活用している」(150)、「国際的な文化交流が盛んである」(124)、「市民が文化に関心を持ち、市民による文化活動が盛んである」(117)、「文化に関する情報が十分に提供されている」(115)という結果となった(図 71)。1 のみ○印をつけた回答者数は 116 人で、残り 733 人はその他の項目との複数回答である。複数回答の組合せでは、1, 4, 7に○印をつけた回答者が最も多かった(計 42 人)。

男女別では、「市民が芦屋の歴史をよく理解し、文化財や歴史的建造物を大切にしている」と「多くの文化人や芸術家が居住、又は活動の拠点としている」、「市民による文化活動の立ち上げや継続に必要な支援制度がある」、「他市から芦屋の文化施設や実施される文化事業等のために訪れる人が多い」という 4 項目において、やや男性比率が高い。一方、女性比率は、「次代を担う子どもに文化に触れる機会が充実している」が高く、「市民が文化に関心を持ち、市民による文化活動が盛んである」、「文化に関する人材育成が行われており、指導者・後継者が育っている」、「福祉・教育・まちづくりなど、さまざまな政策に文化芸術を活用している」も、やや高くなった(図 72)。

年齢別では、「国際的な文化交流が盛んである」は、10 歳代が占める割合が突出して高く、「次代を担う子どもに文化に触れる機会が充実している」、「他市から芦屋の文化施設や実施される文化事業等のために訪れる人が多い」についても、30 歳代までの若い年代の比率が高い。その一方、「市民が芦屋の歴史をよく理解し、文化財や歴史的建造物を大切にしている」という回答は、50 歳代以上が占める割合が高い。また、「文化に関する人材育成が行われており、指導者・後継者が育っている」については、10 歳代と 50 歳代の比率が高くなっている(図 73)。

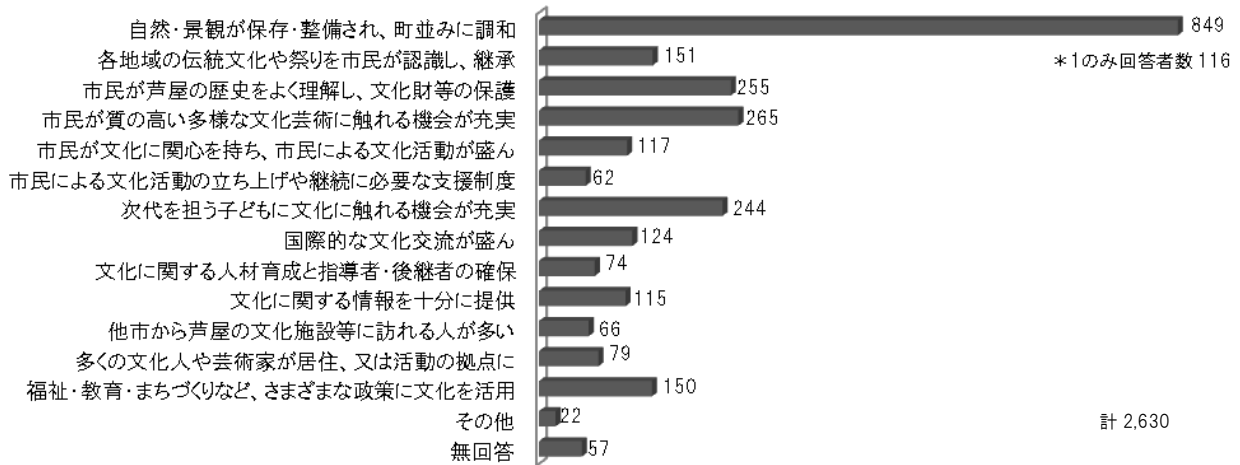
問8「この 1 年間に、文化施設等で文化を鑑賞したり、参加、活動するために足を運ばれましたか」とのクロス集計は、「はい」の回答者は、「市民が質の高い多様な文化に触れる機会が充実している」、「多くの文化人や芸術家が居住、又は活動の拠点としている」という回答において占める割合が高く、一方、「いいえ」の回答者は、10 歳代の比



率が高いことから、「国際的な文化交流が盛んである」という回答と、「各地域の伝統文化や祭りが市民に認識され、継承されている」という回答比率が高く、異なった結果となった(図 74)。

なお、問8における「はい」の回答者は、本問いに対する回答数の 65%を占めている(図 75)。このことから、この1年間の活動経験と文化的なまちづくりへの関心とは、多少の相関関係を見出すことができるとともに、文化活動を通して、文化芸術の質の高さや機会の充実、文化人や芸術家が住むまちを求めていることがわかる。

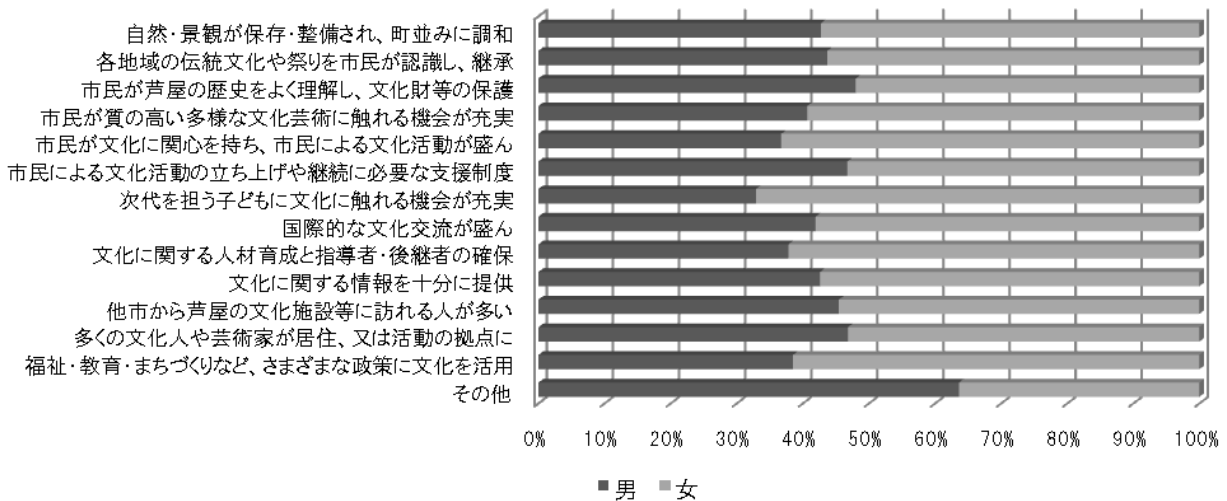
〔図71〕個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりで重視すること



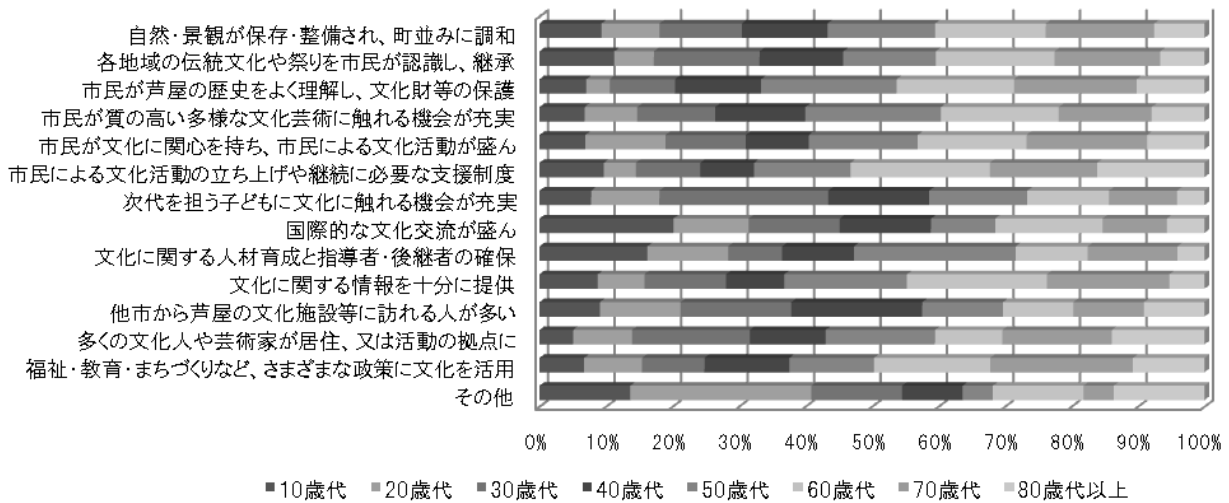
(その他)

- ・著名な人物が、むしろ他からいやされにおとずれる様な町であってほしい！
- ・芦屋という名前が勝手にひとりあるきするのではなく、芦屋という実態があってほしい。
- ・安全で安心して暮らせる
- ・都会にもかかわらず、松・海・川・土面の道・公園 誇れる自然と背景に上質の文化が生きていると感じる街。
- ・若い人が楽しめる文化施設がある。
- ・駅前商業施設の改善。市外からも来なくなる魅力的な商業施設
- ・「わからない」(計 4) 他

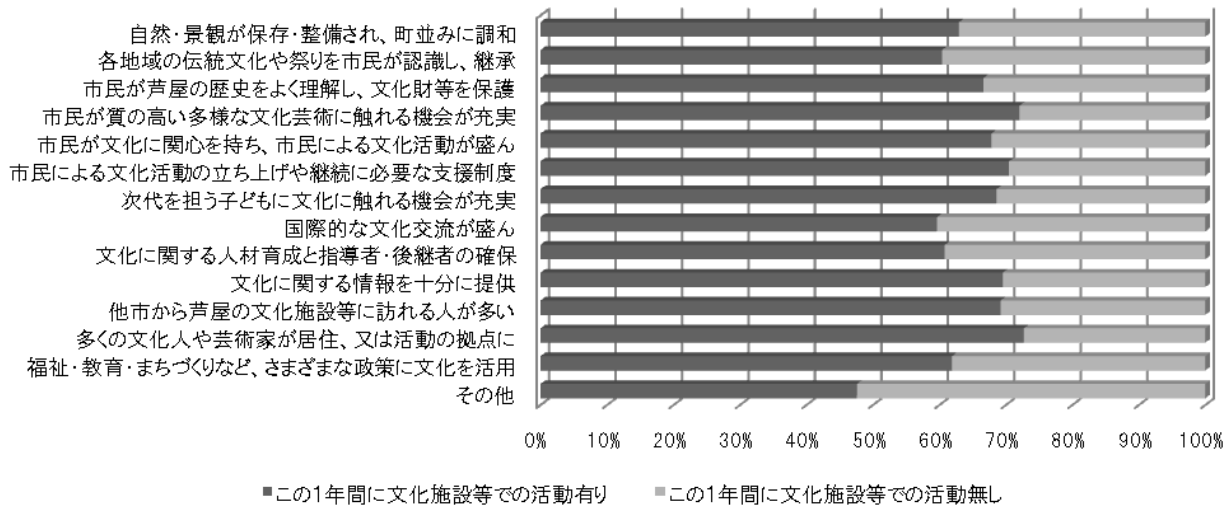
〔図72〕個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりで重視すること (男女別)



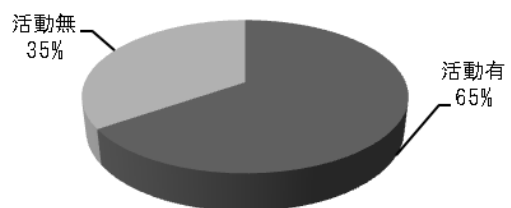
[図73] 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりで重視すること  
(年齢別)



[図74] 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりで重視すること  
(問8 この1年間の文化施設等での活動の有無別)



[図75] この1年間に文化施設等での活動の有無別回答数構成比



問 23 「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために、あなた自身が、どのようなかたちで文化活動に関わることが考えられますか(今後、関わっていききたいというものでも構いません)。  
**あてはまる番号すべてに○印を付けてください。**

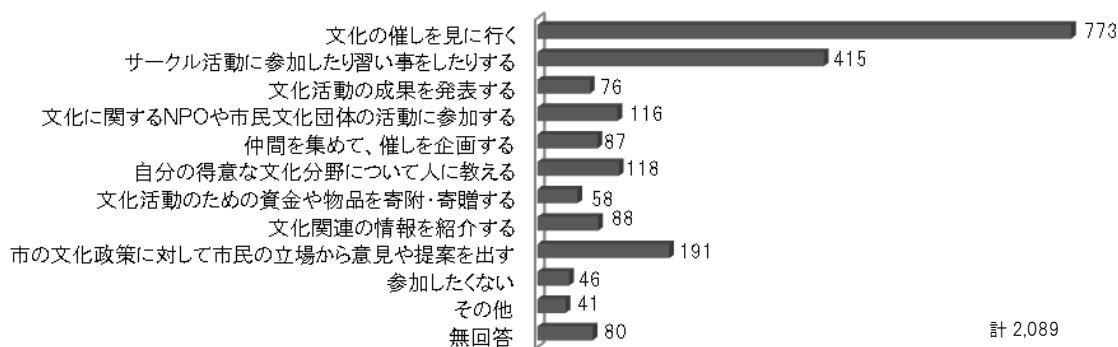
1. 文化の催しを見に行く
2. サークル活動に参加したり習い事をしたりする
3. 文化活動の成果を発表する
4. 文化に関するNPO(非営利団体)や市民文化団体の活動に参加する
5. 仲間を集めて、催しを企画する
6. 自分の得意な文化分野について人に教える
7. 文化活動のための資金や物品を寄附・寄贈する
8. 文化関連の情報を紹介する
9. 芦屋市の文化政策に対して市民の立場から意見や提案を出す
10. 参加したくない
11. その他 ( )

「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために、どのような形で文化活動に関わることができるかという、この最後の設問に対して最も多かった回答は、問 11 の文化活動形態の結果に等しく、「文化の催しを見に行く」(773)が多く、次に「サークル活動に参加したり習い事をしたりする」(415)、そして「芦屋市の文化政策に対して市民の立場から意見や提案を出す」(191)という結果となった(図 76)。

男女別では、男性比率が最も高い「参加したくない」は、回答数は少ないものの、全体の約 6 割となった。それ以外に「仲間を集めて、催しを企画する」、「芦屋市の文化政策に対して市民の立場から意見や提案を出す」、「文化関連の情報を紹介する」についても、男性の占める割合が高い。一方、女性比率の高い回答は、「サークル活動に参加したり習い事をしたりする」、「文化活動の成果を発表する」や「文化に関するNPOや市民文化団体の活動に参加する」となった(図 77)。この結果、男性は主体的な活動を選択する傾向があると言えよう。

年齢別では、「仲間を集めて、催しを企画する」と「参加したくない」において、30 歳代までの若年層が占める割合が高く、一方、50 歳、60 歳代の特徴として、「文化に関するNPOや市民文化団体の活動に参加する」、「自分の得意な文化分野について人に教える」、「文化関連の情報を紹介する」回答での割合が高く、鑑賞したり、習い事をする、次の段階に進んでいることがわかる。また「文化活動のための資金や物品を寄附・寄贈する」項目の回答数は少ないが、10 歳代の比率が高く、50 歳代は、全体の構成から考えると、割合は低くなっている(図 78)。

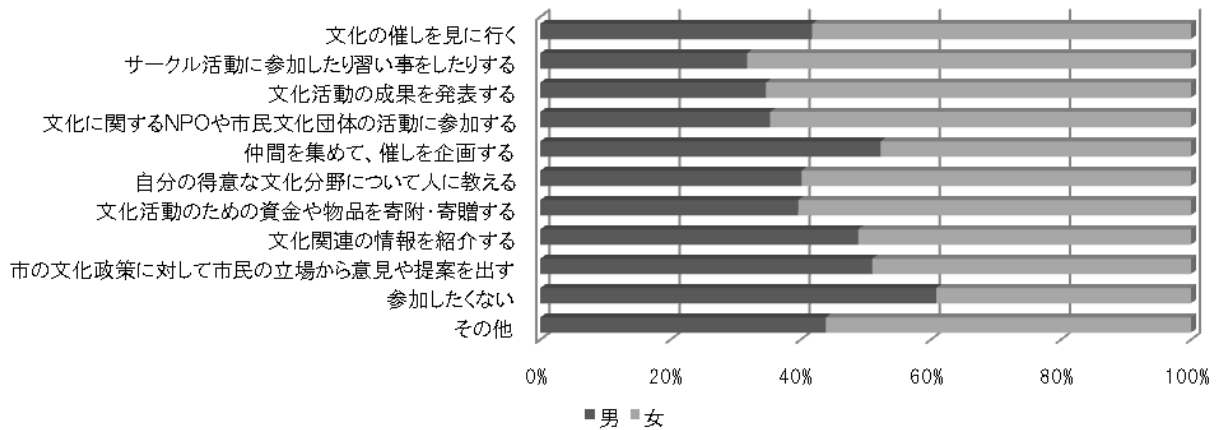
[図76] 今後の文化活動の形態



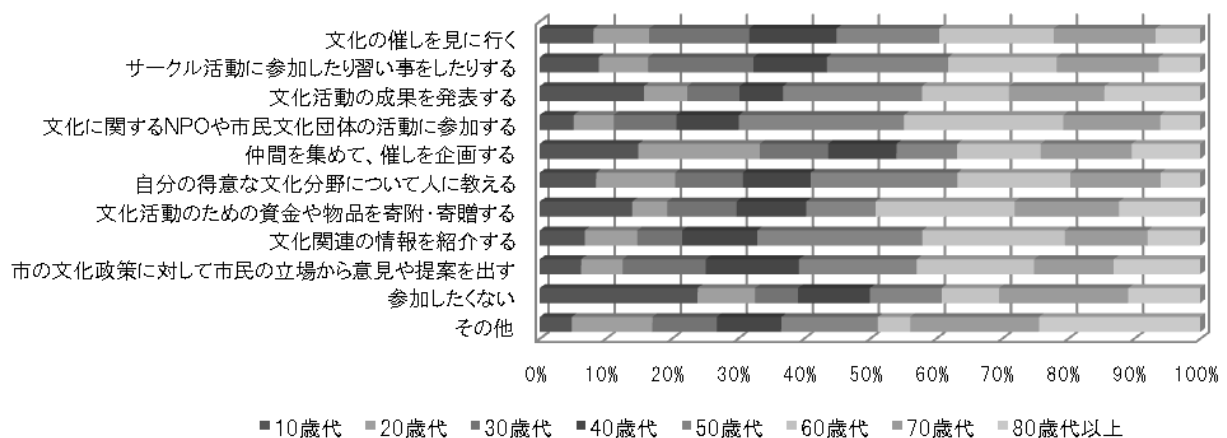
(その他)

- ・登山などをし、直接自然や景観に接する。
- ・活動内容について知ることから始めたい。
- ・質の高いしかもなじみ易い演奏会を提供したい
- ・興味のある事には参加していく。
- ・今回のアンケートで自分がいかに漫然としかとらえていなかったがわかった。関心はずっと持ち続けたい。
- ・一人住まいですので、出来るだけ外部との接触のチャンス多い方がいい。
- ・自分の出来る事を見つけるため情報がほしい！
- ・できればしたいが、なかなか託児所付があるところがない。
- ・今のところ時間的に無理で考えられない。
- ・今のところ文化にそれほど興味はなく、特に考えていない。
- ・高齢と健康上の理由で参加できないという記述（計 15）
- ・文化単独で考えたくない。そこにこだわっただけでは発展する訳がないと思う。
- ・あまり文化ばかり意識しても活力と財政は改善されないとします。
- ・住民が普通の生活を営むに必要な十分なサイクルが地域に形成されていることこそが文化である。他

【図77】 今後の文化活動の形態（男女別）



【図78】 今後の文化活動の形態（年齢別）



## 自由欄

(最後に、芦屋の文化振興に関する、ご意見、ご要望等がございましたら、自由にお書きください。)

### 1. 自由欄記述者の全体像

記述総数 340 [「特になし」等の記述も含む]

自由欄については、文化振興に関して提案・要望のある意見を取り上げ、年齢別・男女別に分類し、整理した。

[表 16] 年齢別男女別自由欄記述数

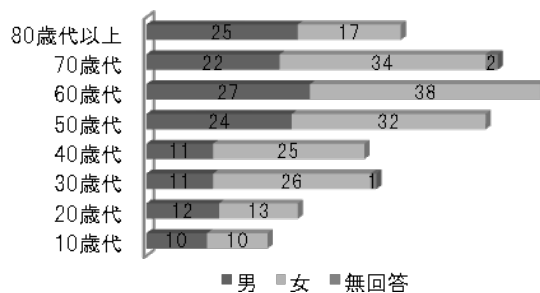
	男	女	無回答	計
10歳代	10	10		20
20歳代	12	13		25
30歳代	11	26	1	38
40歳代	11	25		36
50歳代	24	32		56
60歳代	27	38		65
70歳代	22	34	2	58
80歳代以上	25	17		42
計	142	195	3	340

[表 17] 年齢別記述数の比率

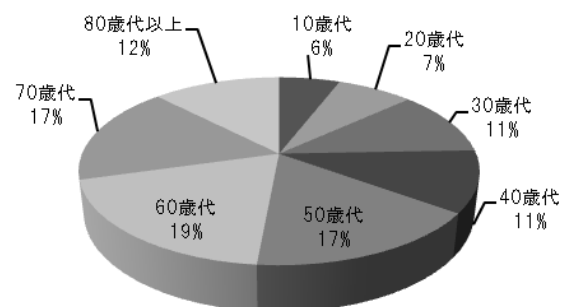
小数点以下は四捨五入

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上
総回答数	108	95	132	133	168	172	180	114
自由欄記述数	20	25	38	36	56	65	58	42
比率(%)	19	26	29	27	33	38	32	37

[図79] 自由欄記述（年齢別男女別）



[図80] 自由欄記述（年齢別）



自由欄記述内容(抜粋)		
10 歳代		
1	男	今まで特に「芦屋の文化」について意識したことが無かったので、「文化振興」という言葉を言われても僕にはよく理解できません。しかし、これから高齢化が進み代々受け継がれてきた文化が若い世代に伝えられずにただもれていってしまうのは実に残念なことであるので、若い世代に伝えていくことをまず優先していけば良いのでは無いでしょうか。その為には例えば学校の授業の中でお年寄りの方たちと文化交流をしたり、身近なことで言うと、上宮川の「しゃこ踊り」というものが今存続が危ぶまれているので、そういうものを重点的に伝えていったりと色々な方法で文化を伝えられると思うので参考としていただきたいです。
2	男	心理学(人間の心の学問)と医学(人間の体の学問)はもっともっと早いうちから科目にあった方が良いと思う。しかし、国に求めても無駄なら、地方で、文化の担としてちゃんと学ばせてほしい。いつまでも医者だけが真実を知っていて、自分の体なのに何ひとつ自由に学ぶ場所も、もっとひらかれた窓口もない・・・ぼくはもっと”人間”自身を学ぶコンビニみたいな場所がほしい！！
3	女	遠くに出かけにくい老人や街を愛する人たちが身近で楽しめ癒されるような、近所の音楽家が学校や公園で町内の秋の音楽会などを望みます。西浜公園の秋の紅葉コンサートも良かった。芦屋市の力で良い季節に野外コンサートなど・・・してほしい。プロの音楽家も多くお住まいです。
20 歳代		
4	男	芦屋市の景観保全のため、条例で建築物に制限を加える。今までも条例で規制があったが、これからも過去と同等以上の拘束力のある条例を望む。美しい景観が文化振興の素地になる。
5	男	文化に参加しにくいと思われる理由として、①参加料金が、②情報が得にくい、どこで相談したら良いかわからない。③時間的な厳しさ(割ける時間が少ない)、④興味が湧きにくい、⑤(特に高齢者の方で)その場所まで行くのがしんどい etc、が挙げられると思います。手ごろな料金設定にしたり、相談窓口を作る、あまり時間的拘束されず、自主的に楽しめる、小さい頃から団体で文化にふれる体験をさせる、その場所までの移動手段を考慮するなどの対策をたてると良いと思います。お仕事、お疲れ様でした。
6	女	感受性豊かかと思いがあふ子どもたちが多く育つように、多くの芸術作品にふれて、感性を磨ける教育環境を整えてほしいと思います。市民の人々が割引価格、または無料で美術館などに入場できるようにしてほしいです。
30 歳代		
7	男	祭り・イベント等を開催するとき 許可行政である市(市の職員)が、“主催者とは別”に近隣住民にイベント等を開催する概要を説明し住民の意見を聞く行為が必要だと思う。(主催者は、当然説明するべきだ)主催者側の説明と別にすることにより許可行為を行う市(行政)がイベント等を行うときの問題点(警備・配慮等)を実際に認識でき事故のない運営をサポートできると思う。またその説明行為の蓄積は、主催者に対してイベント等を成功させるアドバイスでき、さらに、不備のあるイベント計画等を許可しない理由を主催者に具体的に指摘することができる。近隣住民は、説明をしてくれ意見を聞いてくれたことにより日常生活を犠牲にしてもイベント等が意義あるものと納得できイベントにも参加できると思う。市の職員が住民に対して説明行為を行うことが文化振興になると思う。現在、芦屋市の市職員の給料が高いと批判をうけているが、そういった説明行為ができる職員なら給料が高くて当たり前だと思う。逆に単純な事務作業だけを行う職員は、給料をカットし、そのお金を文化振興のために費やすべきだ。
8	女	・図書館の蔵書が少ない(本館も含む) ・本館が遠いので、大原分室を利用しているが、蔵書が少なすぎるので拡充を希望する。

		・出勤時に本を返却できるよう、芦屋駅に返却ポストを設置してほしい！（返却に行きたくとも仕事でなかなか行けない。帰宅時に返却すると、通勤途中重たい本を持っていかねばならず不便。どうか駅前、駅ナカへの設置を実現して下さい！）
9	女	芦屋は面積も狭く、人口も少ないように思います。他地域の方からも、芦屋は金持ちでツンとしたイメージと思われがちで閉鎖的な面もあると思います。文化は人との交流のもとはぐみ継承されていくものであってほしいので、住んでいる人も住んでいない人も心から芦屋が好きになれるよう振興活動よろしく願いいたします。
10	女	概して、“全国屈指の高級住宅地”というイメージばかりがふくれあがり、“本来の芦屋の歴史や素晴らしさ”が知られていない事を残念に思っています。市民はもとより知識人の方々からのお知恵も拝借した現状からの脱却を願ってやみません。
11	女	託児つきの音楽コンサートや、小さい子供と一緒に楽しめるコンサートなどを増やしてほしいです。
12	女	某文化施設の館長の中には市民企画の文化振興に否定的な方が居ると巷でよく聞きます。新しいものを取り込み、型にはまらない企画を実行する意識が必要だと思います。 芦屋文化と言いながら、芦屋市民は文化や公演について、ほとんど情報源がなく、場所も敷居が高く、軽い気持ちで借りにくいです。市外の人を驚かすような公演催しあればよいのでは・・・。
13	女	難しい問題だと思います。私は30代で2才と0才の子をもつ母です。なかなか文化にふれあうことができません。子のためにもリーズナブルで子と一緒に文化にふれあうことができればと思います。よろしく願いします。
14	女	私が小学生の時、学校にオーケストラが来てとても感動したことを覚えています。小さい頃に生の音楽をきくことはとても良い体験だと思うので、ぜひ機会を作ってほしいです。芦屋市は一流の方々と接する機会が多いと思うので、とてもありがたいと思います。これからも一流の方々をゲストで呼んでください。
40 歳代		
15	男	・小さな市であり、これ以上のハコモノは絶対不要（既存施設を活かす工夫を）。 ・好みは多様化しており、全ての市民に十分に活動することは不可能。活動が少ないことは悪いことではない。民間でも実施可能なものはすべて廃止し、行政だからできることに絞って低コストで活動を。
16	男	芦屋の中で生活をして、すぐそこに様々な文化施設があるにもかかわらず、知らない人が多い事におどろきます。若い人等は、転勤の方も多く、興味もないのかもしれませんが、もっともっと広報活動を通して、文化を意識して暮らせる街作りをしていったら良いのでは？と思います。文化的な情報の発信窓口があれば良いのでは？
17	男	海浜の事業や山手幹線などの影響で芦屋のよさが欠けつつある。子供にやさしく、犬にやさしく、自転車にやさしく、文化を感じる独特の町並みが消えつつある。「芦屋」は「芦屋」、大規模な事業とirikみではなく、パーティ好きの市民が語りあえる豊かで品のある、かつコンパクトな文化施設であってほしい。
18	女	市内美術館、市立美術館等、もっと魅力的なテーマのある企画展が望ましい。（一度行けばそれだけになることが多い）外から来て頂くのにはやはり内容だけでなく、建物＋周辺環境の整備や行きやすい送迎バス、駅周りの文化的香りを感じられるような統一感ある街づくりの必要があるように感じられます。
19	女	小学生で初めて観た演劇に感動しました。まだ、素直で感受性が豊かな小学生のうち出来るだけ演劇、ミュージカル、コンサートなど学校で観賞できればよいと思います。大人や老人向けのイベントにお金を使うのなら、次世弟の子供の為に予算を使うべきだと思います。お金と暇のある人は自分でどんどん楽しみを見つけますので、商業の方が魅力的なイベントやってくれますので、ほっておいても良いかと思います。
20	女	文化育成・発展・継承には多大なエネルギーと予算が必要となるが、まず文化政策が明確であること、そして市民が賛同して参画できる形を作っていくことが大切と思う。芦屋は全国的に名高く、そのブランド力を大いに利用して、あまり知られていない分野にも、洗練された形で上手くインターネットなどメディアを上手く利用してスポットをあてたり、文化フェスティバルなどイベントを通して知ってもらうことが大切だ。また若い世代に限らず、高齢者のスキルや才能を

		発掘または披露する機会を設けていくことも必要でしょう。ビジョンや方向性を掲げ、財政面含めてきちんと運営する組織が必要でしょう。
21	女	文化振興を一般の人が参加する形にしたいのか、プロをよんで一流のものをみせる形にしたいのか？どちらを目指すのでしょうか。芦屋市の規模を考えると、後者はむずかしく、一流の芸術などにふれるためにはやはり神戸や大阪まで足を伸ばさなくてはなりません。せめて映画館ぐらいあればいいのと思います。それからプロとしてまだ一人立ちできない人など小さなスペースでコンサートをひらいているのをよくみかけます。小学校にも行って(体育館のような広いところではなくラウンジのようなところで)、きかせてほしいと思います。文化振興を考えるときに対象者を大人の視点だけにせず、“子どもために”ということも考えてほしい。芦屋市は街並も美しいがどちらかというと子育て世代よりは老人が住みやすい街なのでは？
50 歳代		
22	男	芦屋は文化度(?)は低い。金持ちの街以外、イメージもない。例えば銀座や大阪や京都などこんな商売が成り立つんかいという様な物でも、街や人々が育ててくれる。芦屋市は批判家ばかりで、誰も育ててくれない。これは芸術文化でもいっしょ。変わった店なども文化だ。アンケート内容も学者と行政が作った感じがする。
23	男	音楽専用のホール(500席程度の)があればと思う。ルナ・ホールの音響が悪すぎる。市内に多くの演奏家が在住しているときので、市民向け公開講座など地元での活動に協力してもらってはどうか。
24	男	広報をもっと魅力ある存在にできれば、市民が目を通すと思います。デザインや大きさ(A4版2穴等)などの工夫が必要かと感じます。
25	男	スポーツも含めた文化活動の中で指導者が大事だと思います。どんな立派な文化施設があっても、若い人や市民を導いてより関心を持つようにならないければ、文化が創造される街づくりには程遠いのではないのでしょうか。子供の頃、近所には風景韻事を嗜む人が居て、話を聞いたり見たりしていた事が偏見を持たず、様々な文化に関心が持てたと思っています。文化とは人が創り出すものだからこそ、育成する指導者がとても大事です。
26	女	芦屋にはルナ・ホールがありますが、どの様な催しがされているかわかりません。低料金でいいものであれば、人は集まると思います。西宮の芸術げき場の様に!! 手軽な料金でオーケストラ、クラシックが楽しめます。ルナ・ホールでもしているのかも知れませんが、行事予定が伝わって来ないのが現状です。ルナ・ホールの有意義な活動を期待いたします。
27	女	芦屋の文化振興を盛んにするためには、地域の人たちの人間関係の形成に力を入れ、地域が協力をおしまないで、ような雰囲気を作っていくことがつながると思う。
28	女	子供達が成長してしまうと文化振興にかかわることが無くなりました。孫を通して学校から家庭・地域と交流を広げてほしい。豊かなのは資力だけとか個人主義ではなく、自然な形で人々がふれあい自分の能力を他者の為に捧げる(活かす)。特に年金生活者でゆとりのある人たちに学校でのボランティアに参加し、音楽でも遊びでも古き良き時代の遊びのたのしさをあるいは精神的なこと、戦争体験など話を伝えてほしい。
29	女	市内在住のアーティストの活動を積極的に応援して下さい! 特にルナ・ホールや市民センターでもっともっとたくさんの音楽家たちや卵たちが機会を求め、場を求めていると思います。巾広く声をかけ育ててやる環境が次なる次世代を育むと思います。よろしく願い致します。
30	女	住民参加や NPO など不自然に思えます。平凡な生活の中に、自然な形で触れられる質の高い日常とは直接かわりを持たないぜいたくなものとして文化なるものはあるべきです。声高に行政や団体が提供するものに対してはとてもしやない思いをもっています。もっと静かな街であってほしいです。
31	女	地域の一定の人たちが関わるのではなく、まんべんなく参加してもらえるよう協力をお願いし、皆に理解してもらえる体制作りを考えていければと思います。特にお祭りなど巾広い年齢層の人たちが交わって事業に参加してほしいと思います。



32	女	強い希望として映画館を作ってほしい。それができなければ、映画を日常的に上映する場所を作ってほしい(既存の建物、施設を使って)。常に三宮、西宮、梅田へと出かけなければならない。どうして現在、芦屋にないのか不思議だといつも友人と話しています。ルナ・ホールでの演奏会ももっとよいものをたくさん聞きたい。西宮のような芸術劇場が無理でも、努力しだいで良いミュージシャン、演劇などは呼べるのでは？神戸元町にも8月に小さな映画館がオープンしました。昔、映画の町と言われた芦屋になぜ小さな映画館すら作ることができないのか、ほんとうに不思議です。
60歳代		
33	男	～高齢・年金生活・賃借住宅の条件にある立場より～ 文化に参加したい気持ちは多分であるが、＜借家＞の家賃が民間の室代は高い。最も希望するのは＜公的住まい＞※ポイント！！を芦屋市は不足気味であるので、増やして欲しい。文化活動には、経済的余裕も条件であると思う。今のままでは身動きがとれない。私みたいな立場にある人が、多勢おるのではないかと思う。この解決はより芦屋市住民一体となった文化発展が促進され、歓びと活気の出る芦屋市になるものと思う。
34	男	・伝統文化は一朝一夕にしてならず、持続発展を。 ・个性的新文化の醸成と伝統文化との調和。・美しき薫り高い町を創り、育てる調和のとれた町作りを望む。 ・文化育成には住む人々の美意識、感性と知性の涵養が大切、また人、自然に・・・に対する優しい心も。
35	男	芦屋市は緑の多い国際文化都市といわれていますが他市に比べ文化レベルが低く感じられる。他市から人を集客出来る(例えば音楽、美術芸術全体)施設内容の無いのが非常に残念です。
36	男	こと文化に関しては、市民の税金を使っているのだから、市民のために行なうのではなく、もっと広い観点からやっていかないと、単に自己満足におわってしまう。市外にも積極的にPRして、市外からの参加者を増やすことが、芦屋の文化向上につながる。以前にNHKのドラマで白洲次郎をとりあげたのがあったが、番組中のナレーションで「白洲次郎は神戸の芦屋で生まれた。」とあった。甲子園球場が西宮市にある事も、全国的には知られていないので有名なが、そういった点でも、市民を対象としたものでなく、芦屋の存在感を広くPRすべき。
37	男	ルナ・ホールでは、昔、年に数回、行ってみたいと思う催しものがあったが、最近は悪いですが情報収集しようとも思わなくなりました。又、公民館の事業、講座についても何か改善して欲しいものです。文化にはお金が必要！何もかも民間に委託するやり方は(文化施設に関しては)再考すべきと思っています。
38	男	・図書館の本を充実させてほしい(専門書など)。 ・青少年体育館に以前(震災前)卓球コーナーがあったが、また復活させて頂きたい(孫が利用したいと言っています)。気軽に利用できて良かったです。 ・国道2号線沿いに近年多くの飲食店ができ、その宣伝看板が見苦しく、芦屋の文化を壊しているように思います(焼肉など)。
39	女	芦屋市の財政難が言われて久しいですが、その度に文化施設の閉鎖などのニュースが流れると心が痛みます。今ある文化施設(美術博物館など)は、ぜひ継続し、次世代に伝えてもらいたいと思います。
40	女	芦屋のインテリジェンスを活かした、生活にとけ込んだ文化振興の期待したい。例えば、各家庭におけるガーデニング、町の清掃、歩道における禁煙、人の集まる所で定期的に行われる無料コンサートや展覧会のように、街全体が文化ゾーンにいるような市民のQOLに基づく日々の生活がかもし出すような文化こそが、芦屋らしさをさらに高めていくのではないのでしょうか。
41	女	芦屋文化施設(公民館等)利用申込について 1. 申込日が3ヶ月前(公民館)となると、または4ヶ月前(大原集会所)の1回、抽選なので、イベント等の企画がたてにくい。 2. 昨年末からの耐震工事をルナホール、公民館、他集会所と同時期に行なわれたため、活動休止する団体が多か

		<p>った。利用者主体と考えれば、時期をずらす配慮があってもよかつたのでは・・・。</p> <p>3. 施設職員のサービス向上意識に不満あり。役所的。職員が1年各に変わり、プロ意識が低い。利用時間が12時までなら、鍵の返却はそれ以後でよいはずでは。昼休みを交代制にして利用者の便宜を計ってほしい。</p>
42	女	<p>財政が苦しいのは承知しておりますが、目に見えないものにも、予算を多く組んで貰えば、と願っています。EX)図書館の充実など。美術館、谷崎潤一郎等々。</p>
70 歳代		
43	男	<p>音楽ホールの建設を待つ。切角の芦響のほか、アルカディアやタローシンガーズも市外でしか演奏が聴けない。芦屋の歴史・風土・人物(業平、阿保親王、猿丸太夫、楠木正成、その他民話、風土記等の人物)で、時空を超えた物語を創造しての市民参加オペラを創作し、上演したいものである。市内公共施設(集会所ほか)にもっとピアノを増設すべき</p>
44	男	<p>瀬戸内に面し、極めて自然環境に恵まれ、しかも風光明媚で美しく整った町並みは、まさに日本一の憧れの町であり、私は大好きです。国際的文化都市芦屋は震災後15年、今や本格的に矜持を保ちながら再度立ちあがる時と考えます。</p> <p>①西宮市に在る県立芸術文化センターに匹敵するような施設をJR芦屋山側に建てるために立派なホテルを誘致し、その中に入れる。②ルナホールは建て替え、名前をもっと明るいものにしたい。③ホテル竹園あたりに施設ができれば良い。④休日に芦屋を訪れる人がかなり多いので観光・文化都市として大いに大企業の力を借りた民営化も考え乍ら発展することが私の夢である。</p>
45	男	<p>日本一の文化都市を目指すため、街並の整備を重点的に考え、諸環境の細かい観察と整備を・・・。口先だけに終わらず、真剣に考えるために、一般市民の参加する検討委員会の設置はいかがでしょう。老若男女参加行政担当者はオブザーバーとして参加する真剣な検討委員会です。アンケート調査のメンバーの一人に選んでいただきありがとうございます。</p>
46	男	<p>文化人、芸術家のための住居、別荘、仕事場などが集められた文化芸術村のようなセンターが住宅街かコンドミニアムなどのようなものが作れないか。昔、ヨーロッパ(ローマ、パルセロナなど)では芸術家を優遇して住居を提供したやに聞いているが、芦屋が文化人、芸術家の集まる都市にしては如何。</p>
47	男	<p>ルナホールよりも大きな劇場(文化施設)をつくり他市外からも人がくる様になればと思う</p>
48	女	<p>芦屋市は市民数少なく、面積狭く、予算少なく、小さな町であることを再認識する必要があると思います。京都・大阪・神戸・西宮、その他近隣都市の施設・催しに参加するのも容易な立地です。現在の市有施設ー図書館・美術館・ルナホール等の整備、充実に力を入れる程度で良いと思います。これ以上税金を使うのは控えていただきたいと存じます。</p>
49	女	<p>芦屋市民でいながら、伝統文化などに関心がなく、過ごしていましたが、楽しく学べるイベントが企画されれば、多くの市民は参加することでしょう。静かで美しい芦屋の町が観光としても役立つために、一般市民を巻き込んだ計画グループを立ち上げ、実験することを提案します。美術館などの活用案も良い企画が無く、残念に思っています。</p>
50	女	<p>美術博物館をもっと有効に活用してほしいです。市の予算もあるのでしょけれど、展示品に魅力を感じません。立派な美術館ですのに、もったいないと思います。</p>
80 歳代		
51	男	<p>芦屋に東京から転入した時(昭和50年代)市内に所謂"映画館"が無いことにびっくりしました。(パチンコ屋が無いことには賛成でしたが)やはり映画は内外を問わず、いいものです。「～文化センター」などでなく、映画館で観たいものあるのと思いました。三の宮や大阪へ出れば沢山あるのですがね。今はもう懐かしい感懐です。今の芦屋市は少し元気さは弱いと思いますが静かで過ごしやすい所です。</p>

52	男	<p>芦屋の文化とは・・・？市民はどんな文化を求めているのか・・・？施行された基本条例から、市民の一人ひとりが興味と関心を持ち、その振興に自分は何ができるのか、どんな協力ができるのか・・・の自覚が持てるようになってはじめて芦屋の文化振興の担い手になれる・・・このアンケートをはじめ、市民への意識づけ、動機づけへのリーダーシップが求められている。人頼みでは進まない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の生活の質を高めるための活動とその成果の共有</li> <li>・人や地域を元気にし、暮らしをより豊かに良くして、人々を引きつける絆となるような活動。即ち市民が求めている「生活の文化」の振興に焦点を当てて、基本計画の策定を進めてほしい。</li> </ul>
53	男	<p>息子から。父と散歩をよくします。都市経営(特に全体から見た都市機能の提供)という点で芦屋はまったく遅れおります。自ら相手の立場に立って何をすべきかを考えて提供する Hospitality が最も欠落しているのが芦屋の行政です。安全性で分析したら不作為としか言えない危険な場所があふれ、不用な大型車におそれながら道のすみを歩く市民のまちは、まだ文化を語るレベルにたっておりません。文化都市としての施策は道路のほそうだけだったことを皆様は承知しておられますか。市史の発行がまたれます。市経営者の見識が白日のもとにさらされるからです。恥部を語っていますか？都合の悪いことは存在しないことにして、市民トークでも質問に応えることすら出来ない市長が笑いだけでごまかす政治は、政治ではありません。このような批判がアンケートの結果として市からの反論とともに発表されるようなアンケートをなさるよう切望します。</p>
54	女	<p>私の場合、文化以前に生活に窮しており、習い事、鑑賞等はお金がついてまわります。独居老人は、独りでテレビをみているだけです。私のまわりの独居老人が亡くなり空家が 4 軒もあり、隣りの人は気持が悪いとげいています。隣りの家の木が繁って自分の庭をおおったり落ち葉で困っていても、隣りには言えない。石垣に木がはえ、草が繁って道路まではみ出し当ることもある。文化どころかもう少し住みよい街づくりを考へてほしい。</p>

### Ⅲ 芦屋市の文化に関するアンケート調査（文化団体・文化施設） 結果報告

#### 1. 調査対象

##### ■文化団体

〈調査先〉

1. 芦屋市吹奏楽連盟
2. 芦屋将棋協会
3. 芦屋市茶華道協会
4. 芦屋市邦舞協会
5. 芦屋交響楽団
6. 芦屋合唱協会
7. 芦屋市書道協会
8. 芦屋囲碁協会
9. 芦屋少年少女合唱団
10. 朗々会
11. あしや文学同好会

〈回答団体〉計6団体

##### ■文化施設

〈調査先(私立)〉

1. 俵美術館
2. 滴翠美術館
3. エンバ中国近代美術館
4. ヨドコウ迎賓館
5. 虚子記念文学館

〈回答施設〉計3施設

〈調査先(市立)〉

1. 市民会館
2. 公民館
3. 美術博物館
4. 谷崎潤一郎記念館
5. 富田碎花旧居
6. 図書館
7. 打出教育文化センター
8. 上宮川文化センター
9. 男女共同参画センター

〈回答施設〉全9施設

#### 2. 調査項目

問1 貴団体(施設)の事業目的(使命)と、事業活動の概要について簡潔にお教えてください。

問2 貴団体(施設)の事業活動における課題と、その対応策についてのお考えをお聞かせください。

問3 芦屋市での事業活動における課題と、その改善策についてのお考えをお聞かせください。

問4 貴団体(施設)として、芦屋の文化振興にどのように関わってこられましたか。また今後の考え方についてお教えてください。

問5 他の文化施設、文化団体、文化施設、教育機関、民間団体や市民などとの連携・交流活動の現状と、今後の考え方についてお教えてください。

問6 芦屋の文化環境について、どのようにお考えですか。

文化活動(鑑賞・参加(学習)・創造)を行うための場(アクセス、使いやすさなど)について  
文化活動(鑑賞・参加(学習)・創造)の機会について  
文化活動を支える人や経済的側面について  
文化に関する情報の収集・発信などについて、具体的にお聞かせください。

問7 有形、無形、新旧を問わず、継承すべき(あるいは残したい)芦屋の文化資源について、自由にお答えください。

問8 「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために、貴施設(団体)が重視されることは何ですか。

最後に、芦屋の文化振興に関する、ご意見・ご要望等がございましたら、自由にお書きください。

### 3. 調査結果

#### 1. 文化団体 結果概要

文化団体のアンケート回収率は5割強で、分野的に見ると、高齢者が多数を占める団体からの回答となった。その結果、課題の多くは、若年層の伝統文化離れが進んでいること、会員が高齢化し、会員数も減少しており、それによる財政難や予算不足、そして広報宣伝力の不足も挙げられている。練習場が足りないといった意見は、他地域でも、音楽団体より指摘されることが多い。また民間団体の相互協力や協力参加を課題とする団体もあった(問2, 問3)。

各団体とも、芦屋の文化振興に積極的に関わってきたという経緯が記述されている(問4)が、他の団体などとの連携・交流活動については、同じ分野、もしくは市や市の教育機関とは連携することがあっても、他の文化団体との交流がほとんどないという回答も半数を占めた。市が中心となって文化団体をとりまとめることができれば、発展するだろうという意見もあった(問5)。

芦屋の文化環境について、現状で問題なしとする回答があるものの、施設面では、分野や使用団体、出演者に偏りがあること、使用料の高さ、貸館の場合、特定の曜日に集中する結果としての場所の不足などが課題となっている。情報発信の面では、市の広報紙や掲示板などで充分とする回答がある一方で、さらなる広報宣伝の充実が求められており、経済面では、先に挙げられた経済的課題の解決のために、市に対しては、助成金等の支援を望む声もある(問6)。

継承すべき芦屋の文化資源については、「谷崎潤一郎記念館」(＋「白洲次郎記念館」の新設)、「芦屋ゆかりの作家や文化人」、「芦屋を代表する景観、建築物」、「芦屋国際俳句大会」の復活と継続実施などが回答として挙げられた(問7)。

「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために各団体が重視することは、「伝統文化の理解と参加」、若年層の文化活動への参加促進、「市民一人ひとりが更なる文化活動推進する意識を持つこと。それを支える行政の綿密な計画」、問5においても指摘されたとおり、「各文化団体を統合した芦屋市文化協会を設置」することによる、各団体の連携強化などが記述されている(問8)。

自由欄については、これまでの問いのなかで指摘されたことを除くと、芦屋の文化振興のためには、市に文化の「専門部署を置く」ことが必要だという意見があった。

#### 2. 文化施設 結果概要

調査対象のうち、市の施設が3分の2(送付先14施設の内9施設)を占めたため、回収率は高くなった(85.7%)。

個々の施設によって目的や事業活動に違いはあるものの、共通課題は、まず、市民の関心を高めるため、展示のマンネリ化を打破するための、市民のニーズに沿った、企画力に苦慮していることがあり、ひとつの大きな共通課題となっている。次に、市民の認知度を高めるため、敷居を低くするための広報宣伝力といった、情報発信についての課題も多く提示されている。とりわけ情報発信については、民間施設が多い芦屋では、市がとりまとめて発信する、市の主導的役割も求められている(問2, 問3)。また、芦屋市での事業活動における課題では、市の施設では、指定管理者制度の導入とともに運営面(効率性、予算や人員確保)の課題も挙げられており、社会教育系施設では、活動拠点の少なさも指摘された(問3)。

芦屋の文化振興に関わってきたこととしては、芦屋から世界に向けての発信、芦屋に特化した事業の展開や、そのための新技術の導入といった回答が挙げられるだろう(問4)。

他の文化施設や市民などとの連携・交流の現状や考え方については、積極的な連携・交流を重視する回答が多く、同じ分野のなかでの広域的な連携や、芦屋の観光振興にも寄与したいという意見もあったが、回答内容から各施設は、それぞれの目的に沿った連携・交流事業を模索していることがわかる(問5)。

芦屋市の文化環境についての設問に対して、美術館・博物館系の施設からはほとんど回答がなかったが、社会

教育系施設からの回答の結果、経済的な側面から芦屋市民のなかでも文化的需要が二極化していること、活動拠点を分散化する必要性や小規模施設の不足などが、課題として挙げられた。その一方で、総じて、芦屋市民の文化活動は盛んで、活動場所も多く、サービスも十分に行き届いているという回答も見られた(問 6)。

継承すべき芦屋の文化資源については、「昔遊び」や「季節の催事」などの生活文化、「遺跡や古文書・美術工芸、伝統芸能」といった文化財、歴史的建造物としては「松濤館(図書館分室)」が挙げられており、「芦屋という地のイメージ」(ブランドイメージ)、「景観」、また「将来のノーベル賞候補者となる人」といった回答もあった(問 7)。

「個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくり」を実現するために各施設が重視することは、回答のあった 7 施設の多くは、個々の事業活動の使命を全うする、ということにつながっているが、一民間施設において、「公益性を最優先に運営する」という回答が見られた。(問 8)。

最後の自由欄では、ハイカルチャーの振興とともに大衆文化を継承していくこと、文化行政の担い手が文化を理解し、行政は事業者ではなく、市民活動の支援者となるべきであるといった意見が記述されている。

以上